

画像情報特論 (10)

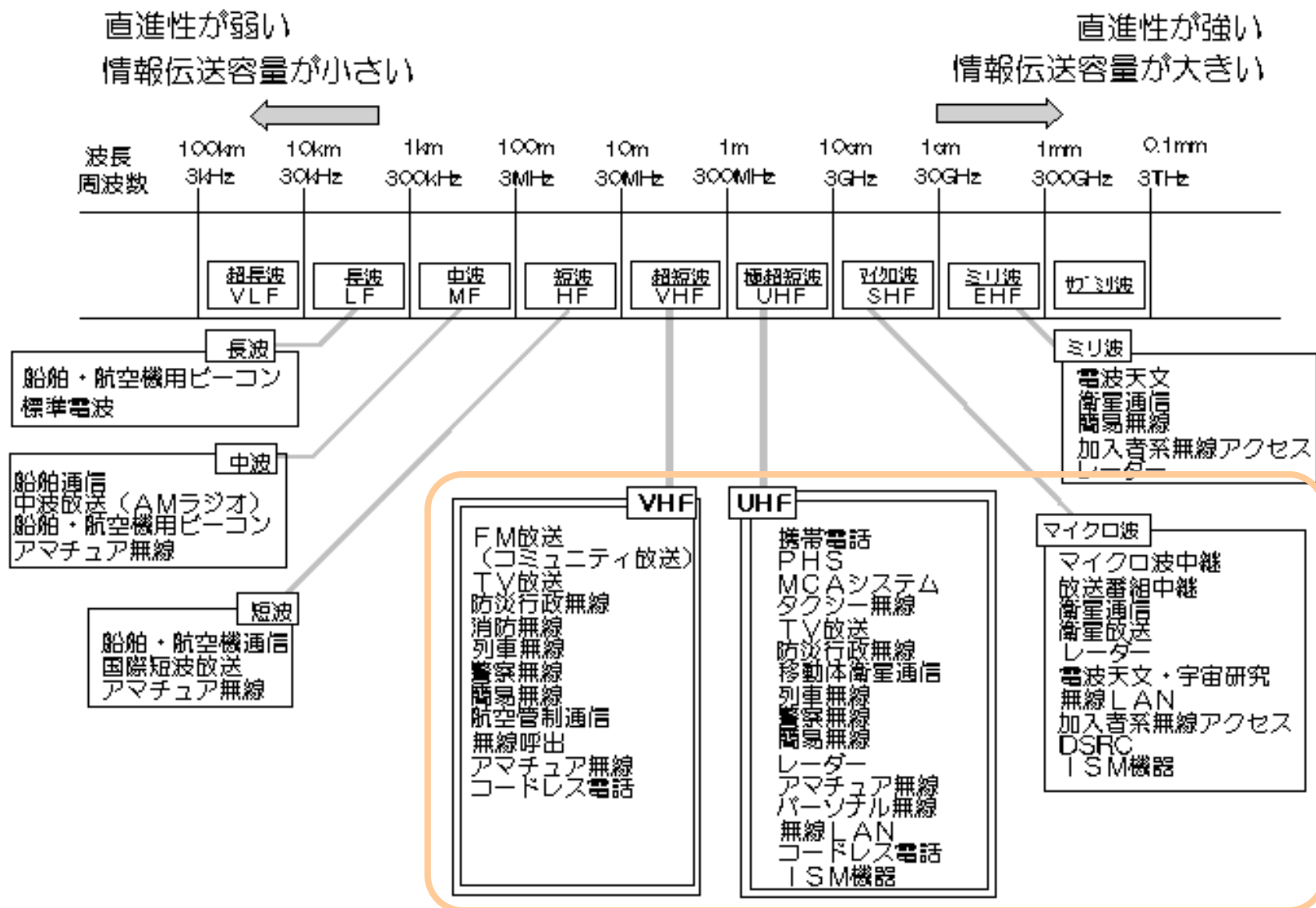
- モバイル、ワイヤレス、FMC/IMS

情報理工学専攻 甲藤二郎

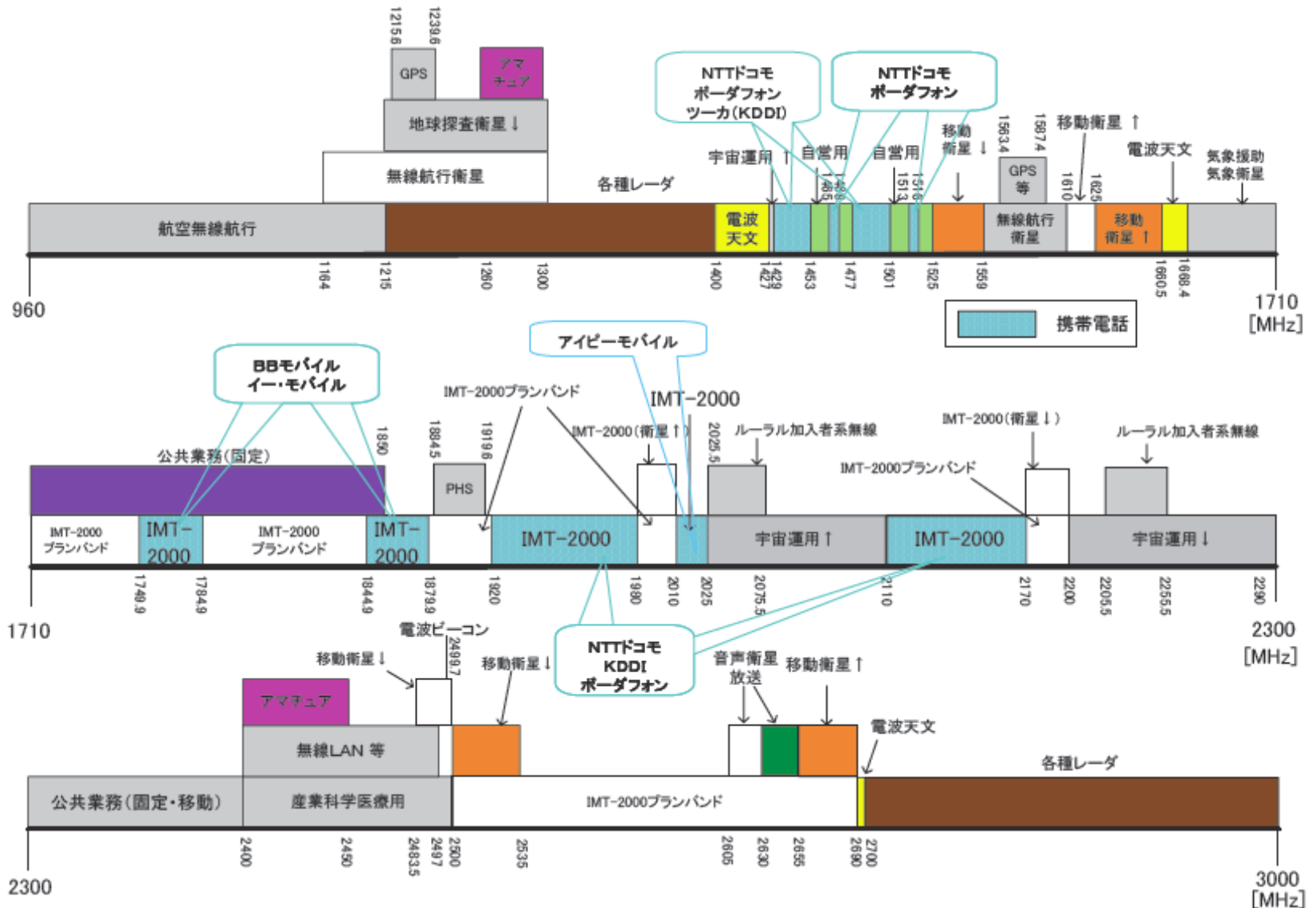
E-Mail: katto@waseda.jp

FMC/IMS、NGN

総務省資料(1)



総務省資料 (2)

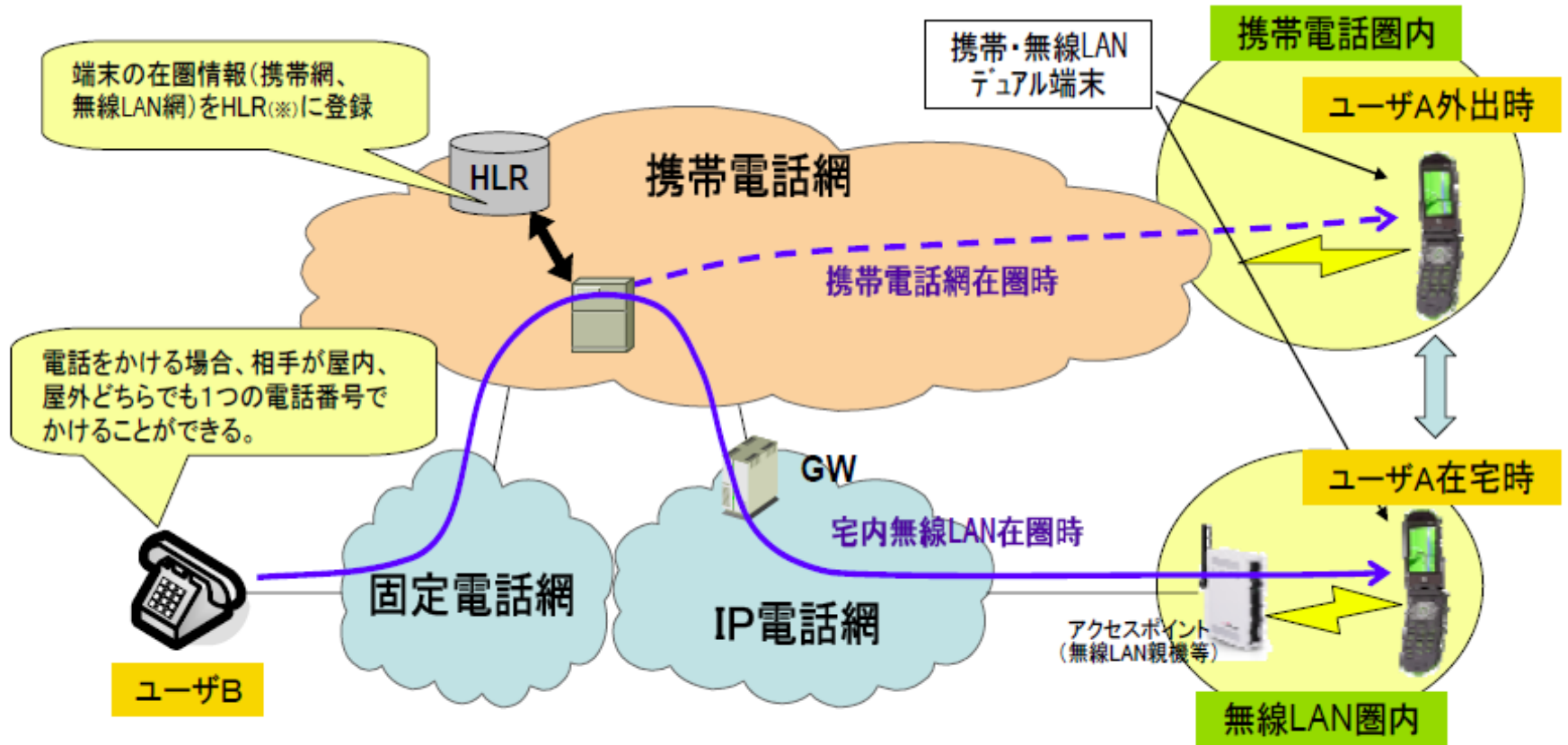


総務省資料 (3)

分類		伝送速度	標準規格	サービス開始年	
有線	銅線	・ISDN	64kbps × 2ch	1988年	
		・ADSL ・VDSL	上り:最大12.2Mbps/下り:最大50.5Mbps 上り:最大40Mbps/下り:最大100Mbps	G. 992シリーズ (ITU) G. 993.1 (ITU)	1999年～
	光ファイバ (FTTH)	・B-PON ・GE-PON (1000BASE-PX)	最大100Mbps/1ユーザ当たり 最大 1Gbps/1ユーザ当たり	G. 983シリーズ (ITU) 802.3 EFM (IEEE)	2000年 2004年
	光メタル併用 (HFC)	・CATV (DOCSIS1.1) ・CATV (DOCSIS2.0)	上り:最大10Mbps/下り30Mbps 上り:最大30Mbps/下り42Mbps	J. 112 (ITU) J. 122 (ITU)	1996年～
無線	携帯電話	・W-CDMA ・W-CDMA HSDPA ・CDMA2000 1x ・CDMA2000 1x EV-DO	最大384kbps 最大14Mbps 最大144kbps 最大2.4Mbps	IMT-2000 (ITU)	2001年～ 2006年～ 2002年～ 2003年～
	無線LAN	・IEEE802.11b ・IEEE802.11a/g	最大11Mbps 最大54Mbps	802.11b (IEEE) 802.11a/g (IEEE)	1999年～ 2002年～
	無線MAN	・IEEE802.16-2004 ・IEEE802.16e	最大75Mbps 最大38.7Mbps	802.16-2004 (IEEE) 802.16e (IEEE)	2005年～ 2007年頃～

総務省資料 (4)

FMC: Fixed-Mobile Convergence, One-Phone Service



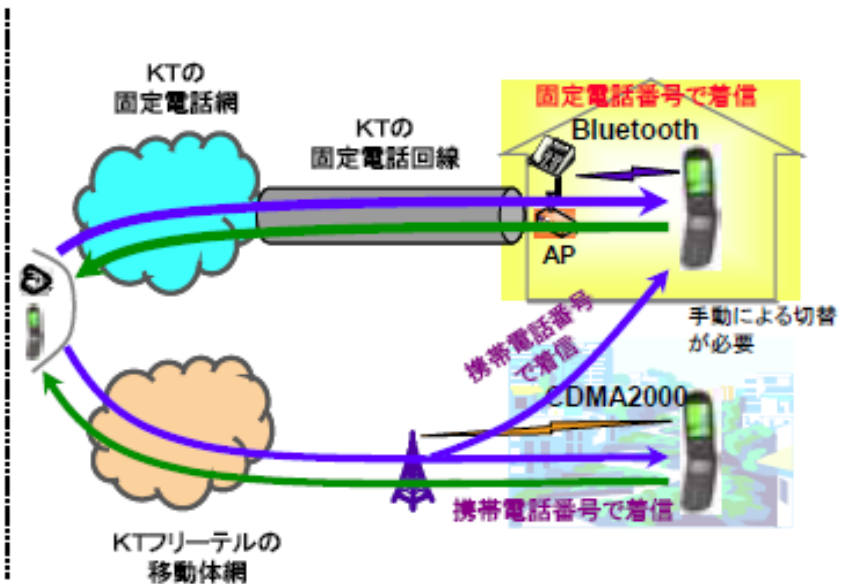
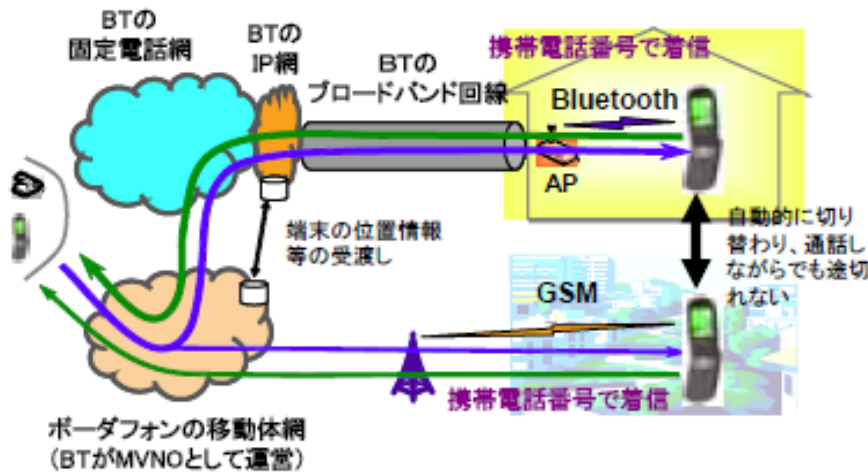
※ HLR:Home Location Register

総務省資料 (5)

FMCの例：英国と韓国

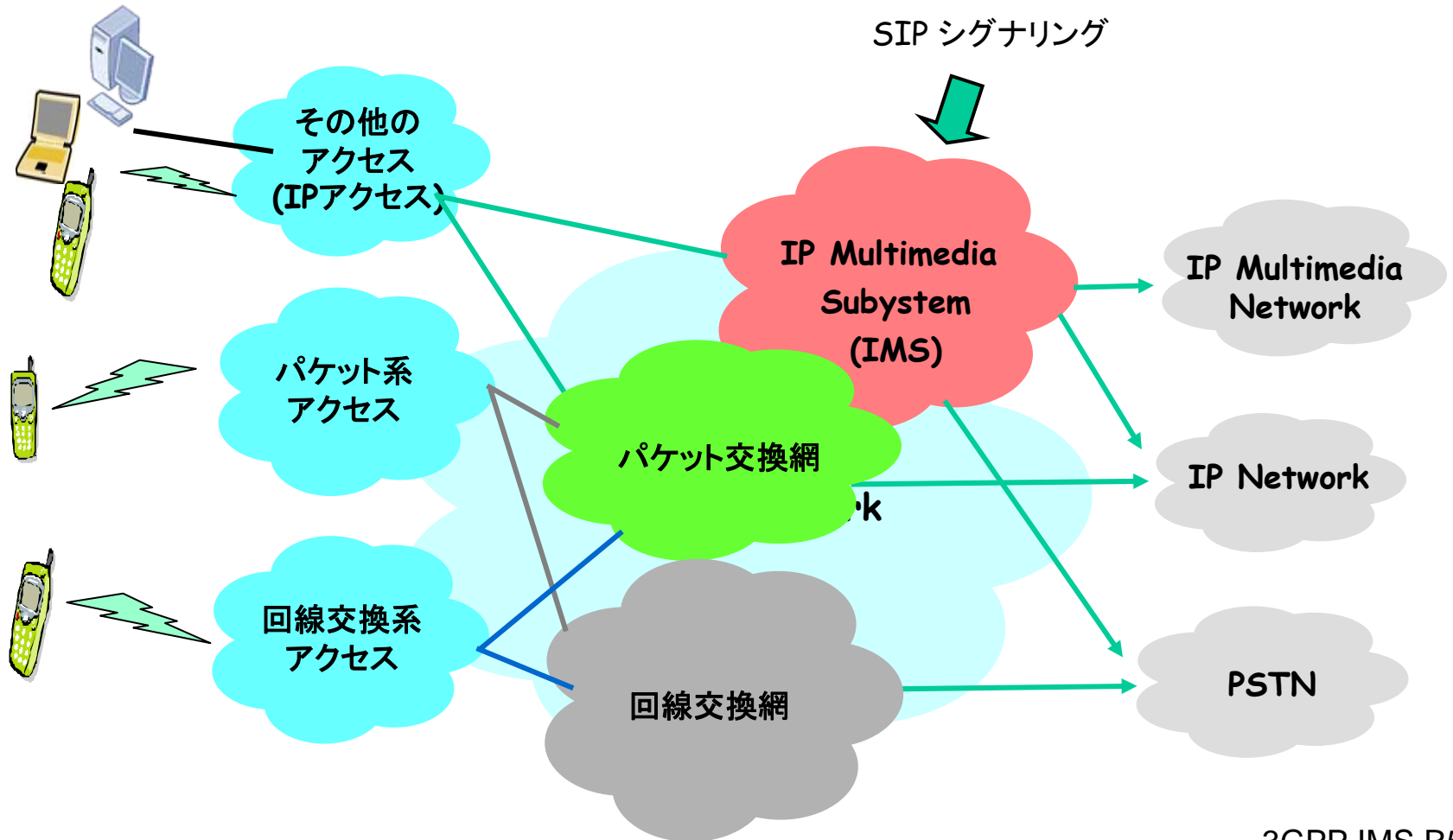
【英国】BT : 「BT Fusion」

【韓国】KT : 「OnePhone」



IMS

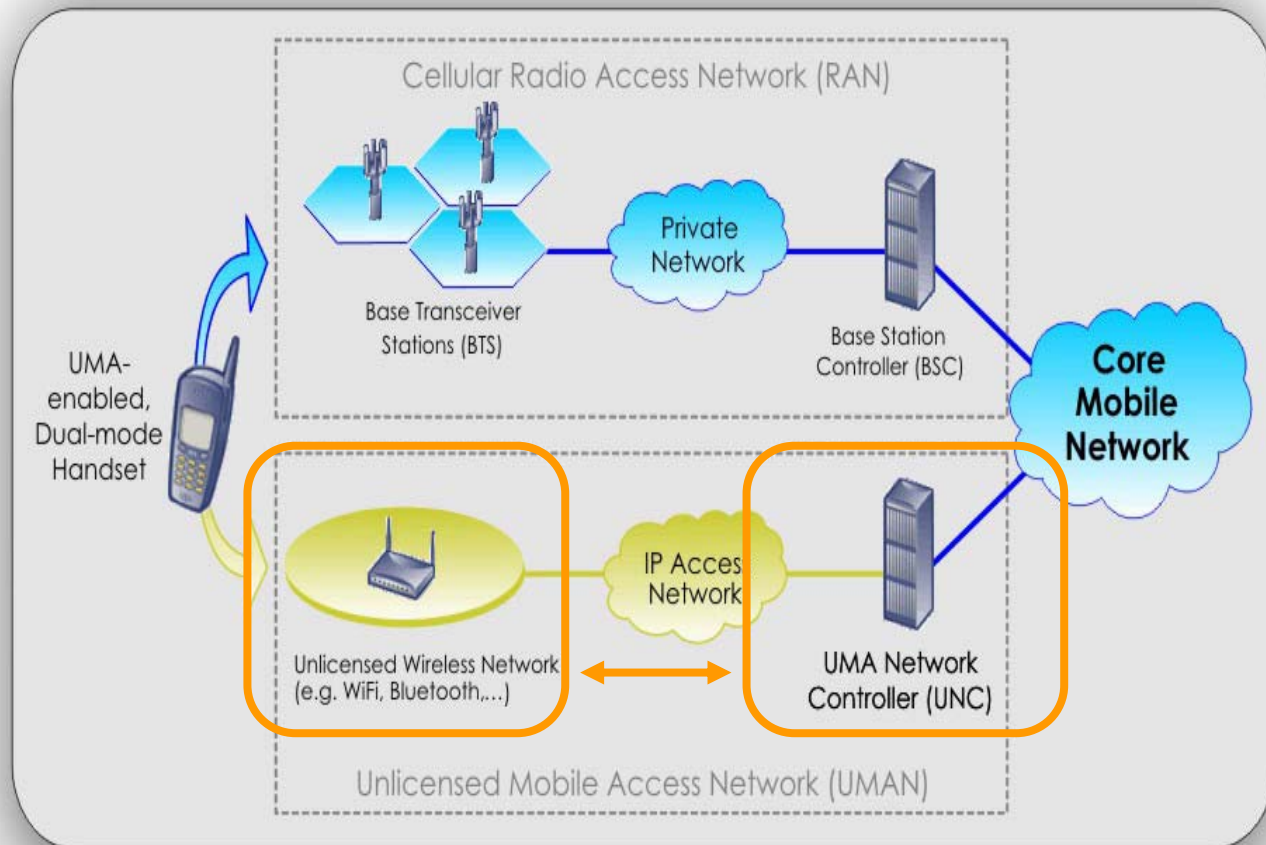
IMS: IP Multimedia Subsystem



UMA

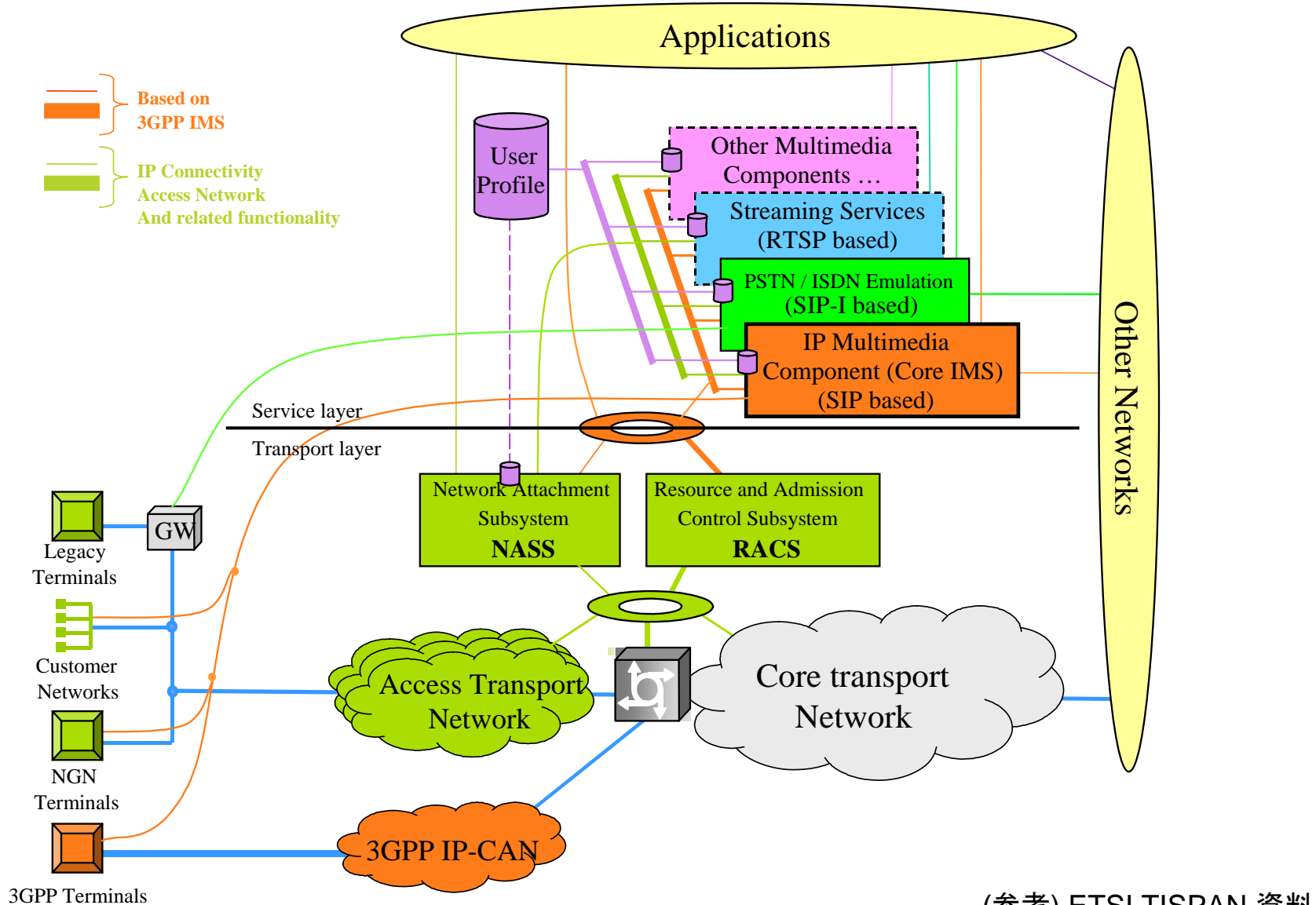
UMA: Unlicensed Mobile Access

- 家庭内の各種無線アクセスポイントを携帯電話基地局として扱う仕組み

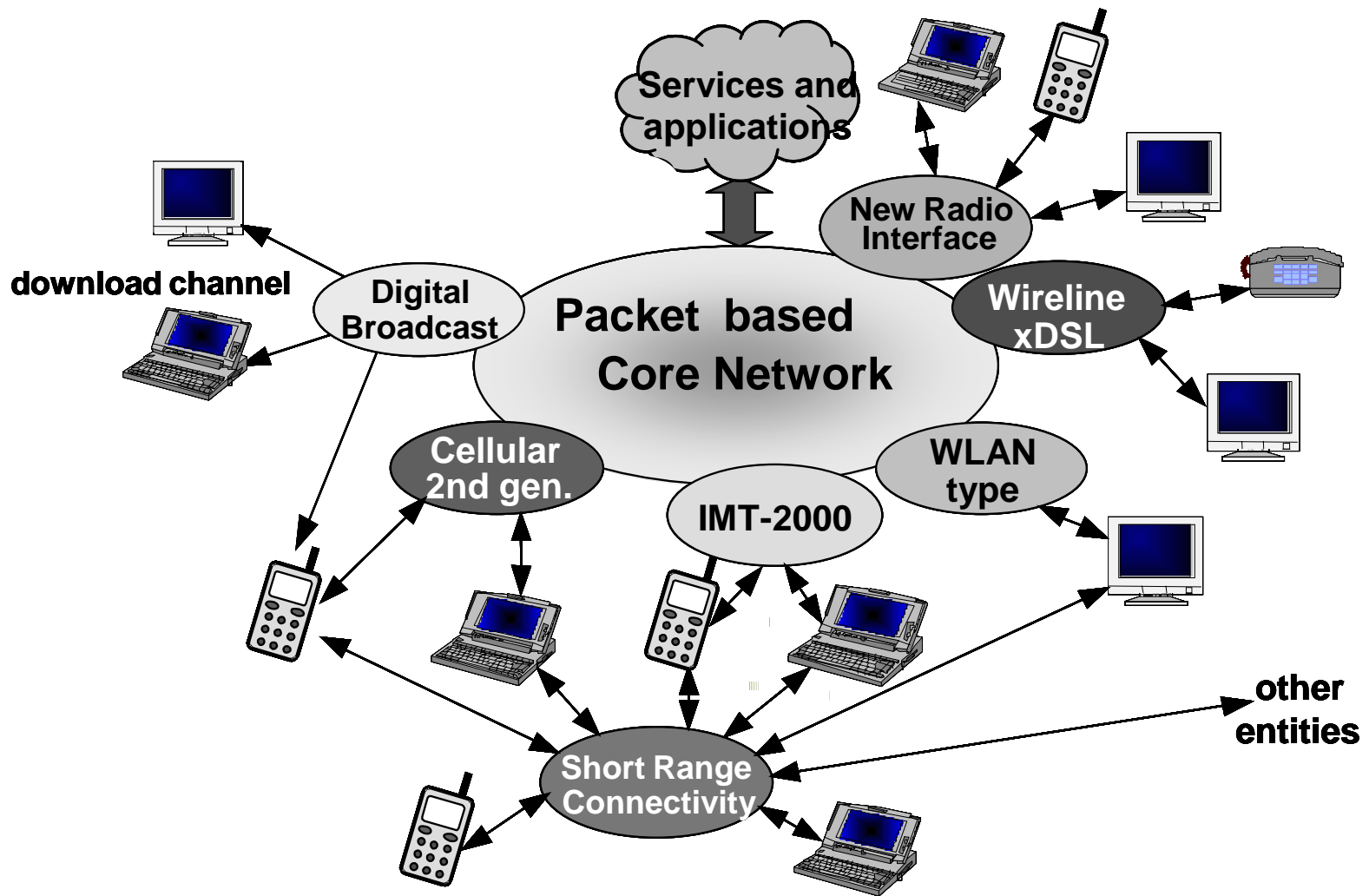


NGN

NGN: Next Generation Network

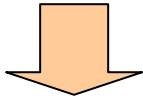


ITU-R M.1645



Quadruple Play

Triple Play: Voice + Video + Data



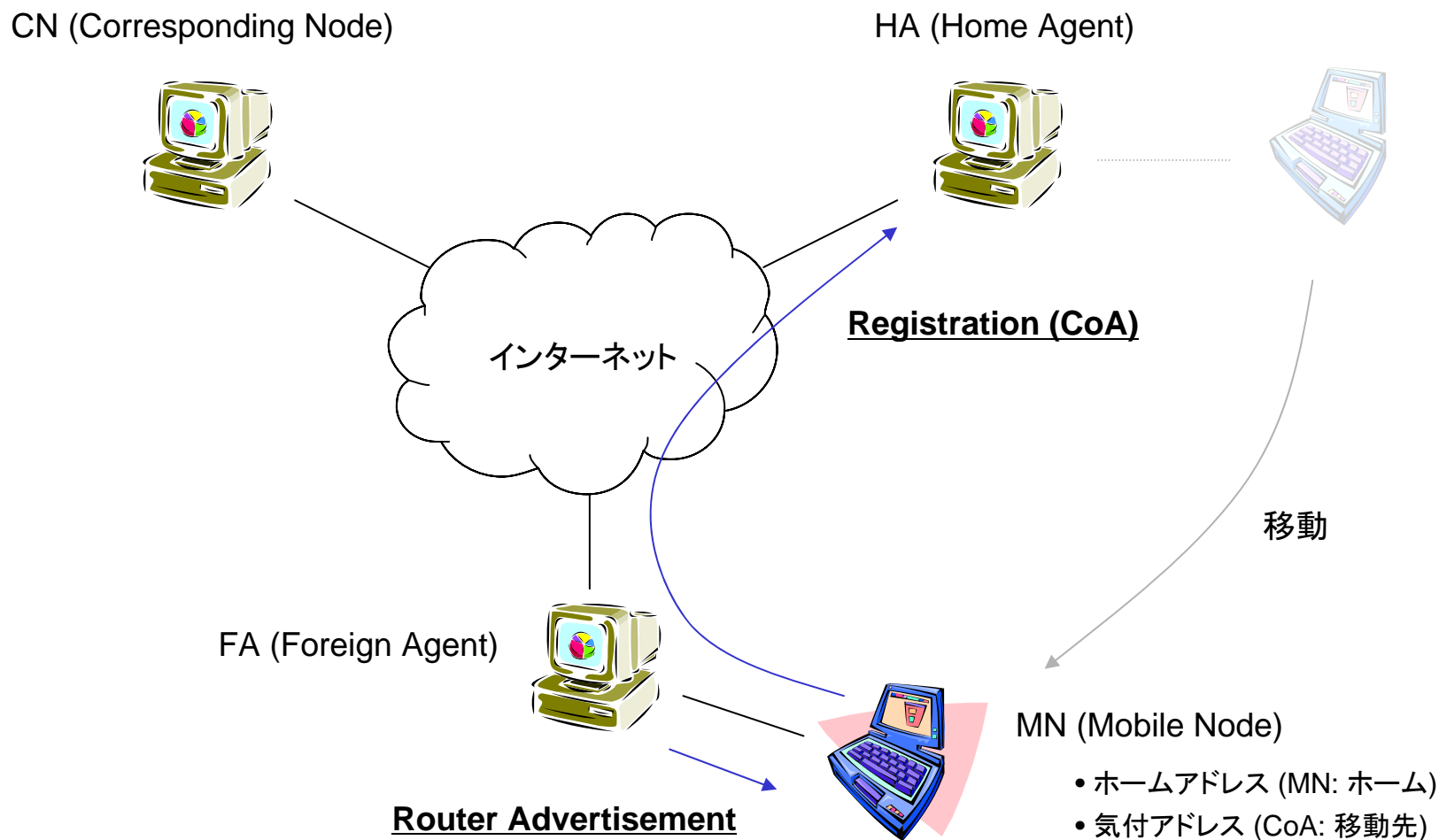
Quadruple Play: Voice + Video + Data + Mobile/Cellular (FMC)

モビリティ管理

- L3モビリティ: Mobile IP
- L7モビリティ: SIP Mobility

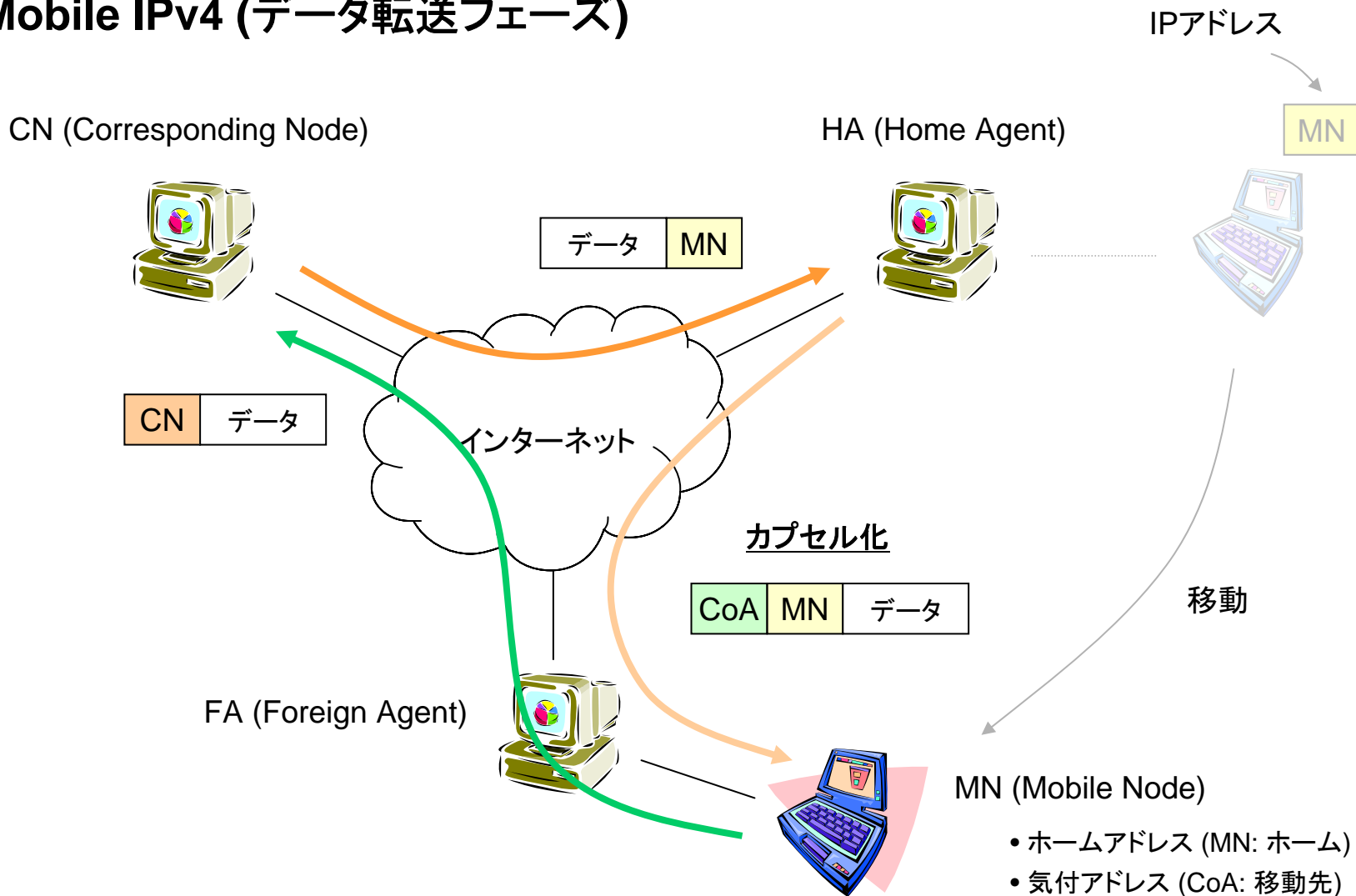
Mobile IP (1)

• Mobile IPv4 (制御フェーズ)



Mobile IP (2)

• Mobile IPv4 (データ転送フェーズ)



Mobile IP (3)

• Mobile IPv4 (定義と手順)

定義:

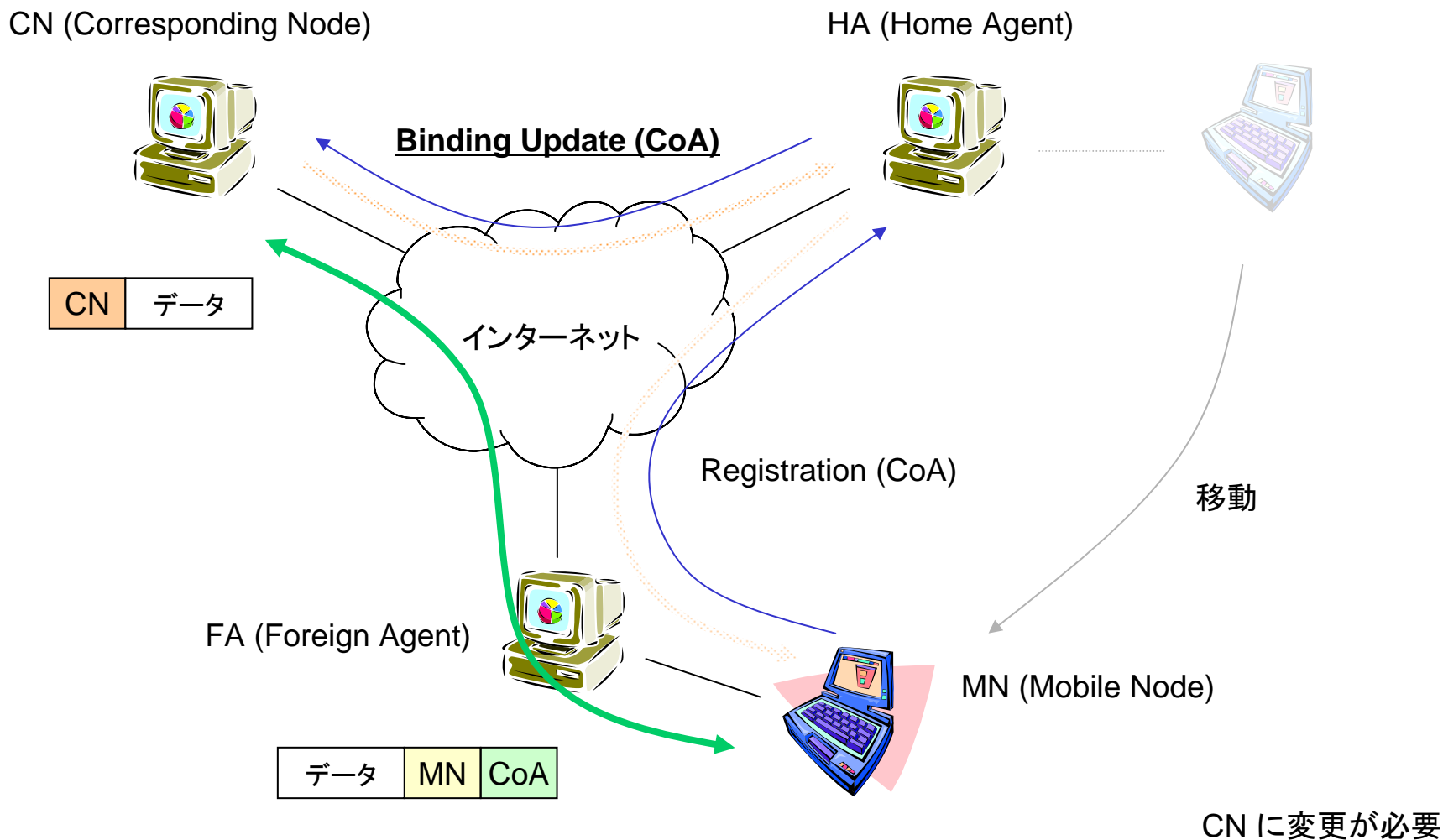
- MN (Mobile Node): 移動端末
- CoA (Care of Address): 気付アドレス (共存気付と外部気付)
- HA (Home Agent): 移動元エージェント
- FA (Foreign Agent): 移動先エージェント
- CN (Corresponding Node): 通信相手

共存気付アドレスの場合:

- MN が FA から CoA をもらう (**Discovery**: Advertisement, DHCP 等)。
- MN が HA に CoA を登録する (**Registration**)。
- CN からのパケットを HA が MN にカプセル化転送する (**Delivery**)。
- MN は、受信パケットのカプセル化をほどきデータを受信。
- MN は、送信元アドレスは MN のまま、CN に対してパケットを送信。

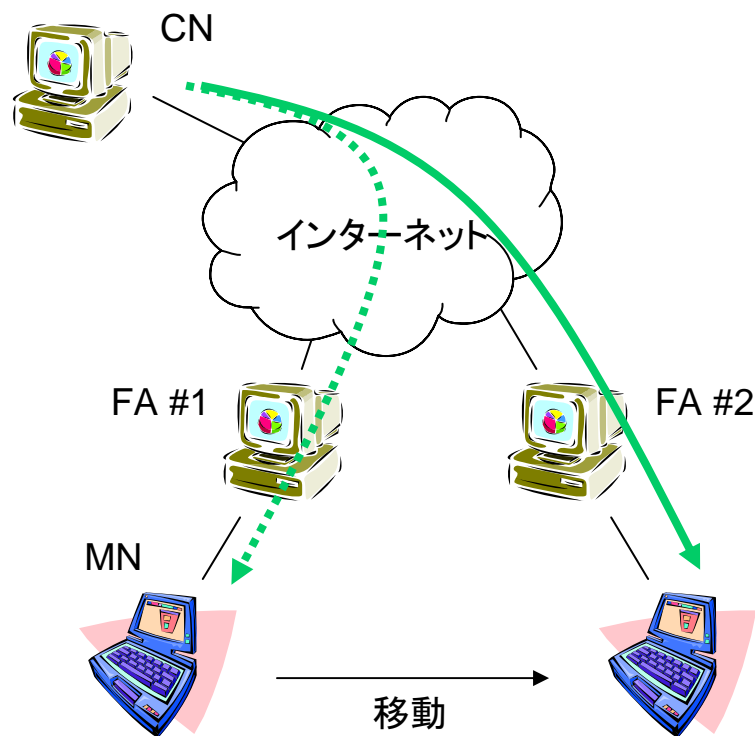
Mobile IP (4)

• Route Optimization (三角経路の回避オプション)



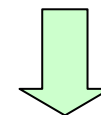
Mobile IP (5)

• Fast Handover (1) 概要



課題: ハンドオーバー処理

- (1) シグナリング遅延の削減
- (2) パケットロスの削減

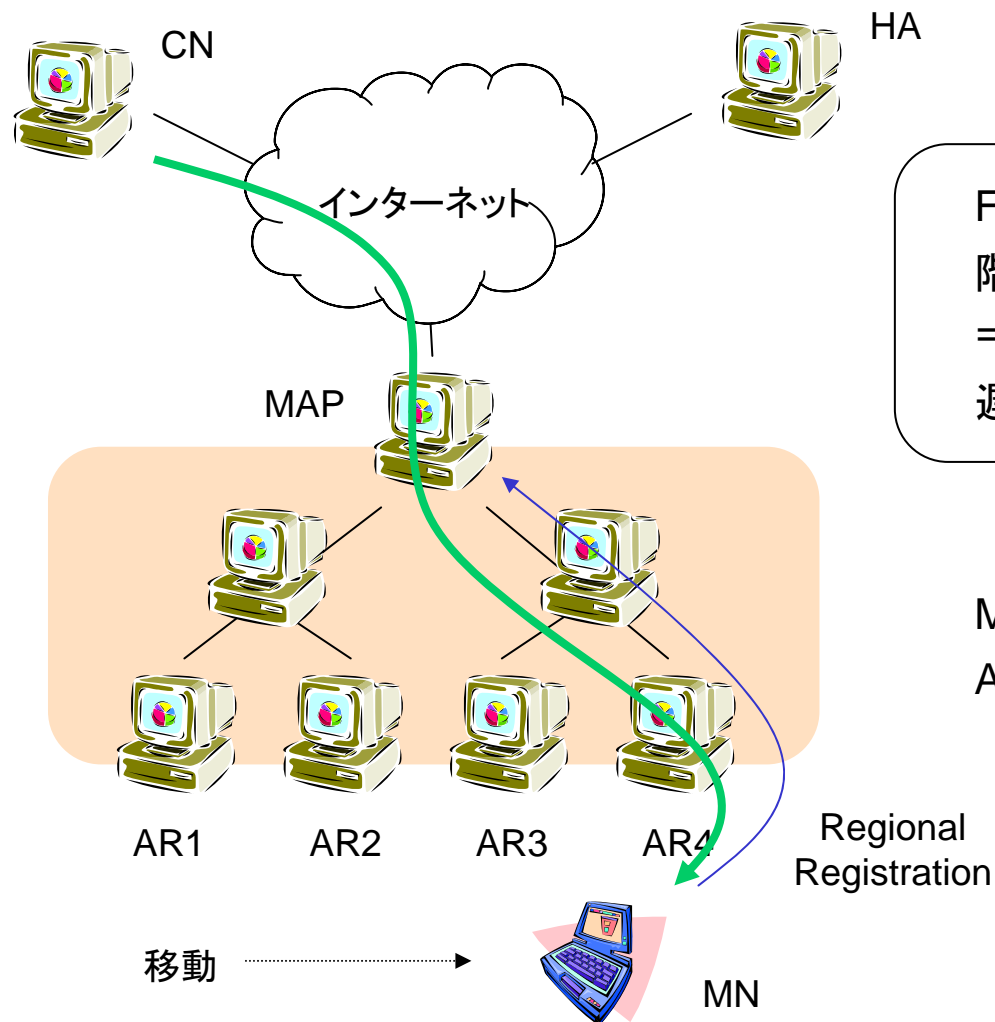


対策:

- (1) 階層化 MIP (HMIP)
- (2) バッファリング
- (3) バイキャストイング

Mobile IP (6)

• Fast Handover (2) 階層化 MIP



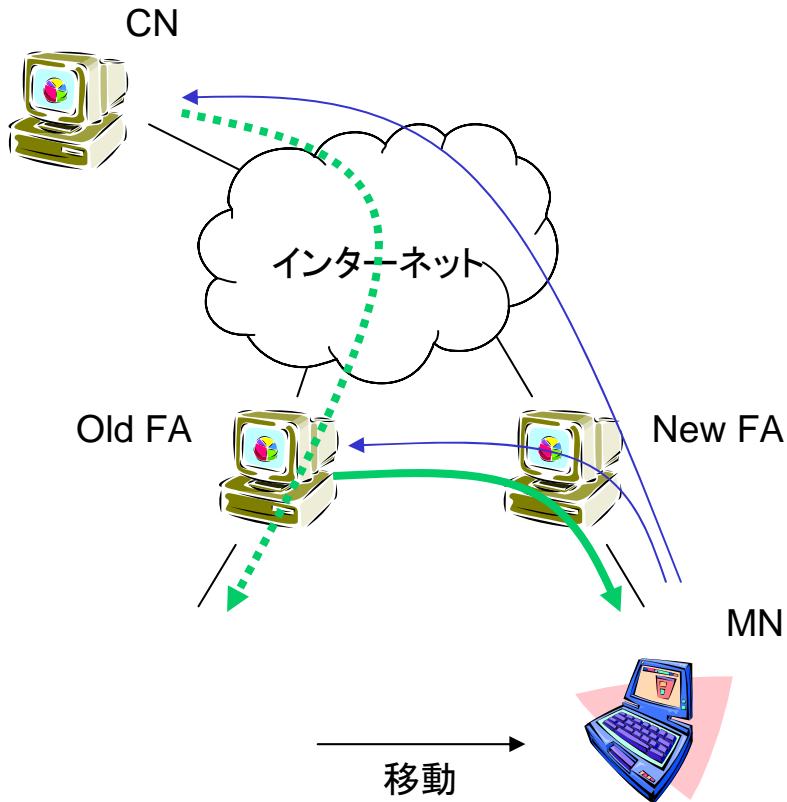
FA の階層化、
階層化ドメイン内でのみのシグナリング
⇒ MAP を跨がない限りはシグナリング
遅延が低減される

MAP: Mobility Anchor Point
AR: Access Router

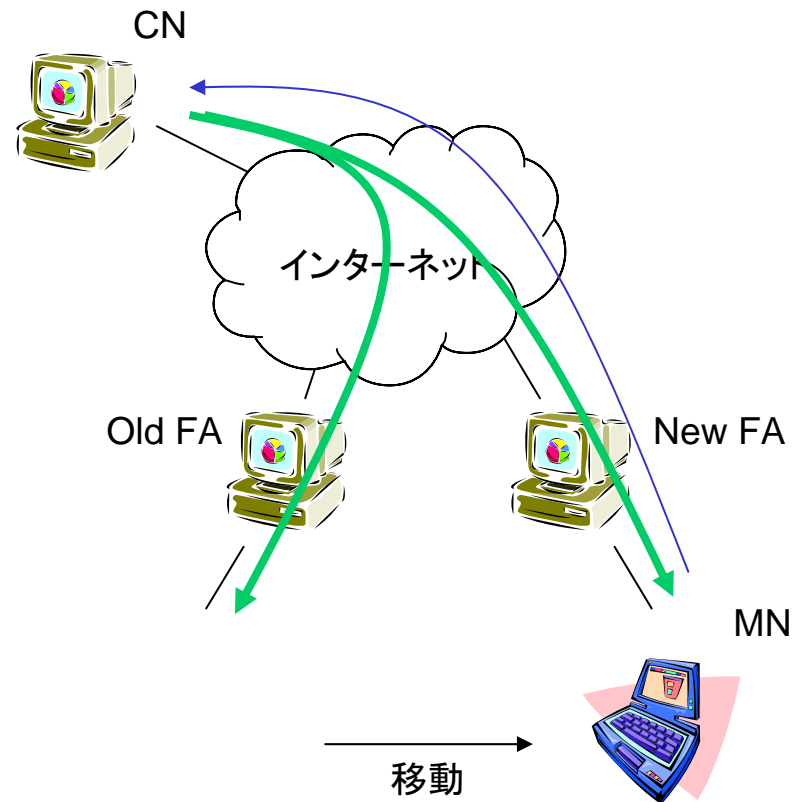
Mobile IP (7)

• Fast Handover (3) バッファリングとバイキャストイング

Buffering (Fast MIP)



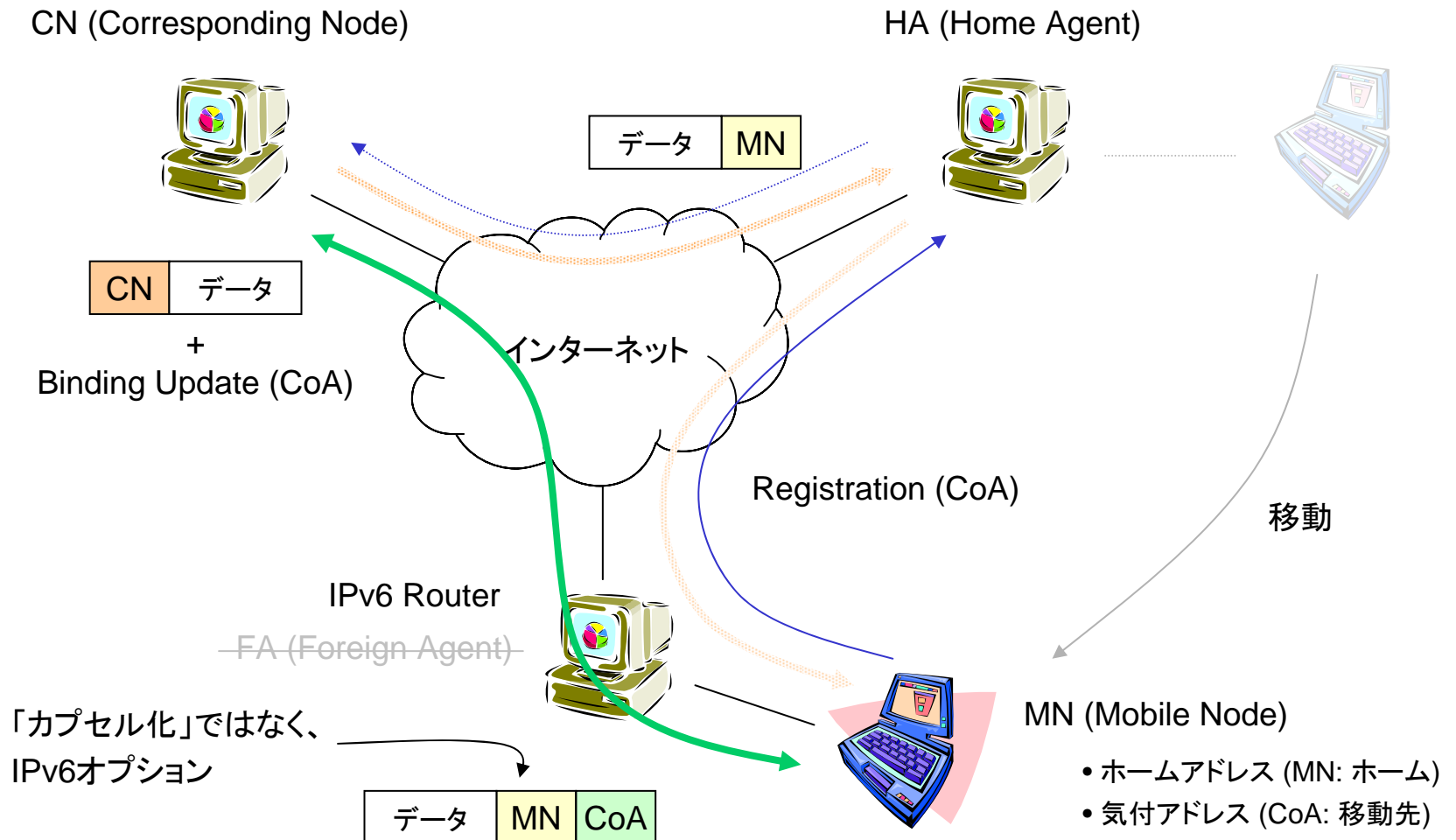
Bi-casting (Simultaneous Binding)



パケットロスの削減: HMIP との組み合わせも可能 (CN を MAP に置き換える)

Mobile IP (8)

• Mobile IPv6 (データ & 制御)



Mobile IP (9)

• Mobile IPv6 (定義と手順)

IPv4 との違い:

FA の廃止: IPv6 Stateless Address Autoconfiguration

Home Address Option: MN は発信元アドレスを CoA として送信

Destination Option: Binding Update をデータパケットに乗せられる

⇒ Route Optimization を (MIP拡張ではなく) IPv6 としてサポート

MIPv6 の手順:

MN が CoA を取得する (Stateless Address Autoconfiguration)。

MN が HA に CoA を登録する (MIP Registration)。

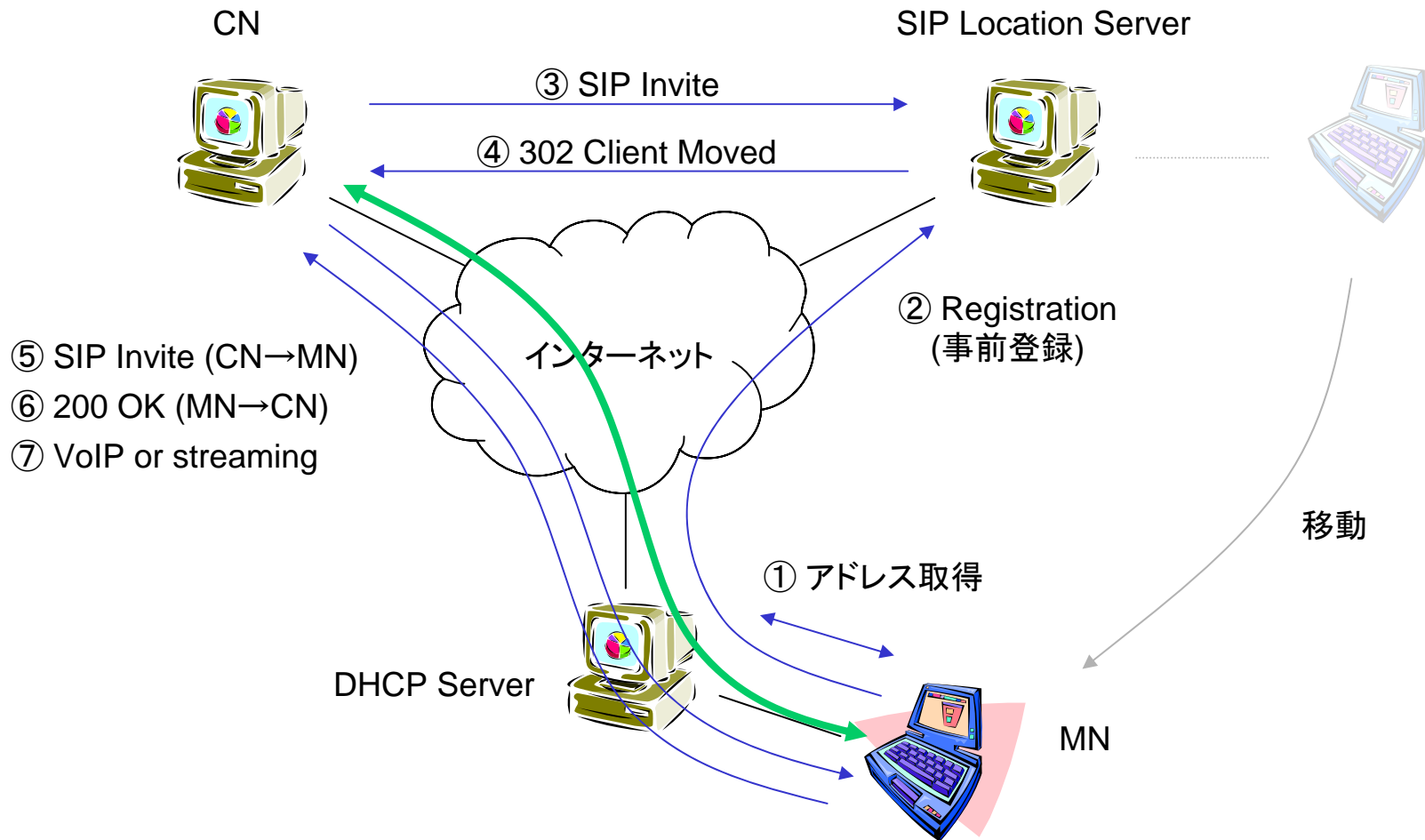
CN からのパケットが、HA からカプセル化されて MN に転送。

MN は、Binding Update を乗せて、CN にパケットを送信。

以降、MN と CN は、HA を介さずにパケットを送受信。

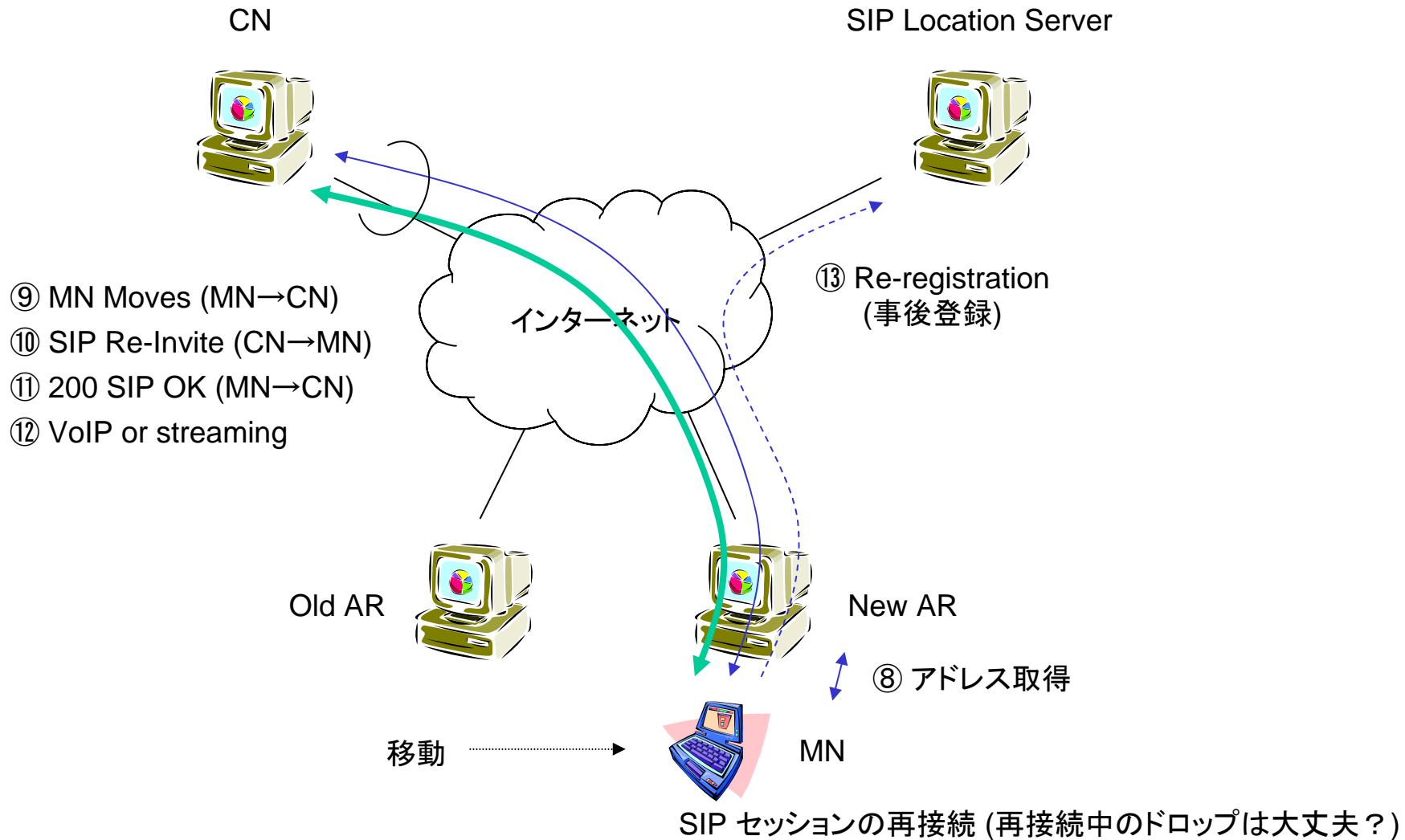
SIPモビリティ(1)

• プレコール・モビリティ: セッション前



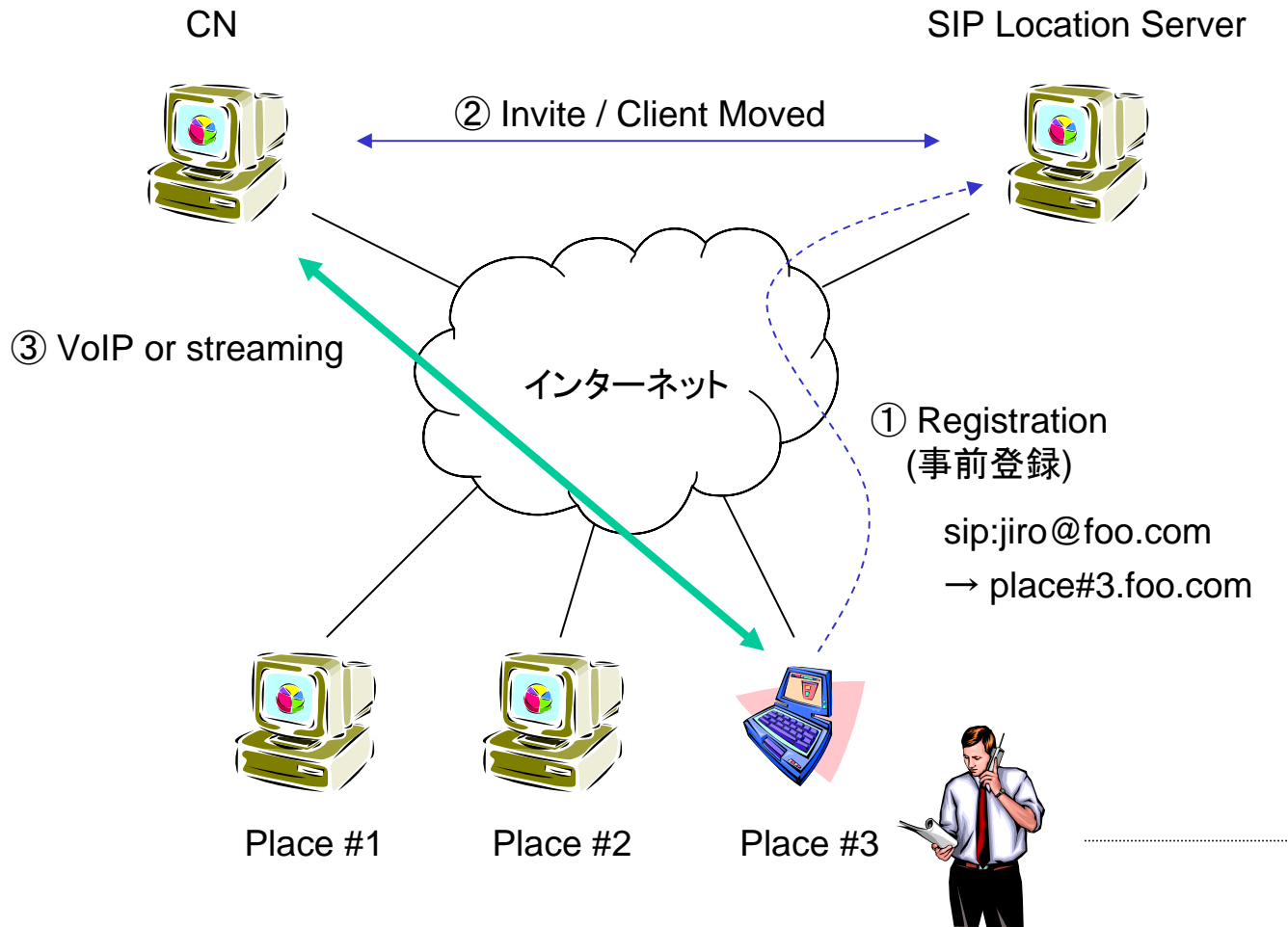
SIPモビリティ (2)

• ミッドコール・モビリティ: セッション中



SIPモビリティ (3)

• パーソナルモビリティ



「端末」ではなく、「人」に合わせたモビリティ

MIP Mobility vs. SIP Mobility

	Mobile IP	SIP Mobility
移動の単位	端末 (IP アドレス)	ユーザ (SIP URL)
レイヤ	L3	L7
三角経路問題	あり (MIPv4) 【対策】 (1) Route Optimization (MIPv4) (2) MIPv6	なし
ハンドオフ対策	HA への再登録 遅延要因： アドレス取得遅延+HA までのラウンドトリップ遅延 【対策】 (1) Hierarchical MIP (localization) (2) バッファリング (loss reduction) (3) バイキャストイング (loss reduction)	Location Server への再登録 遅延要因： アドレス取得遅延+Location Server までのラウンドトリップ遅延

ワイヤレス

- IEEE 802.11e (WiFi Multimedia)

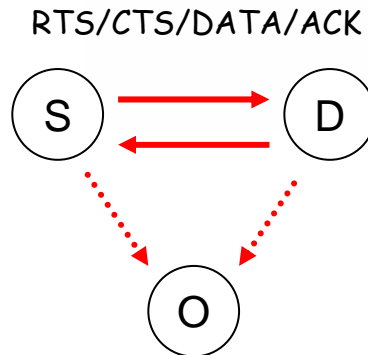
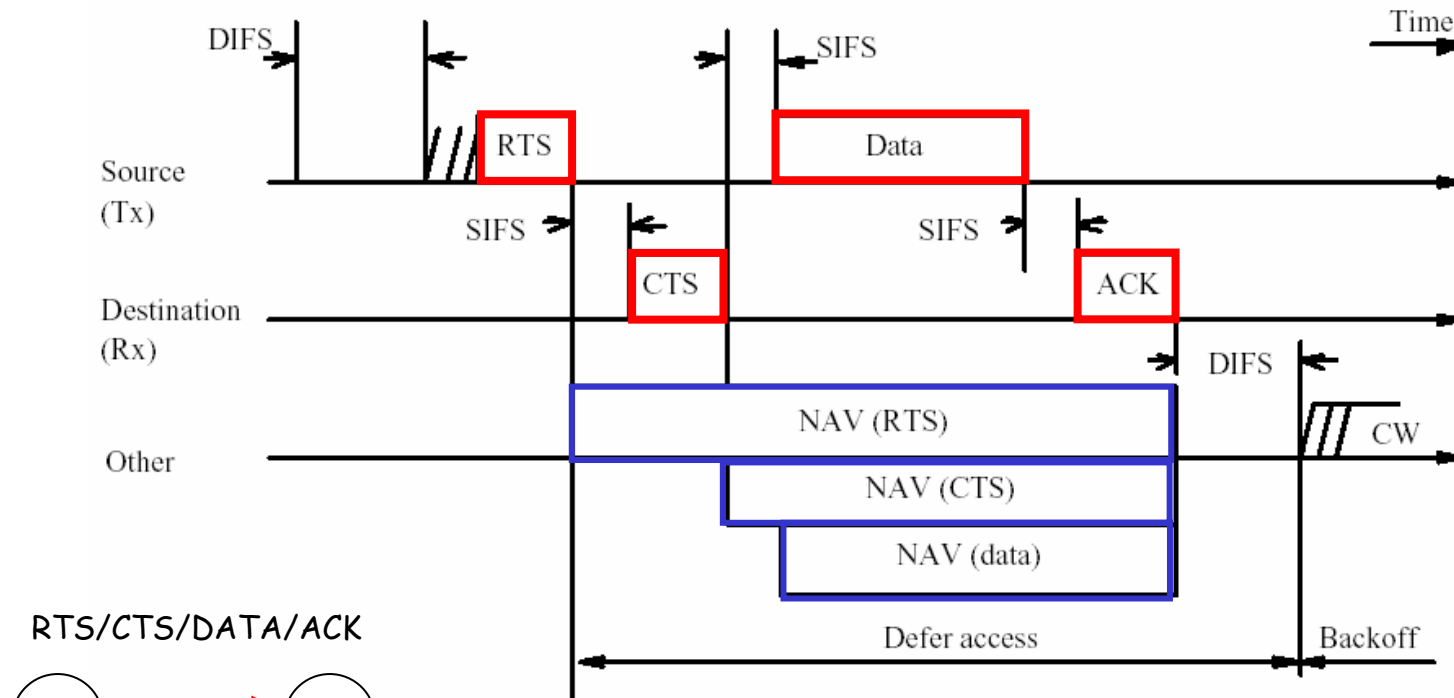
IEEE 802.11

- 無線LAN

802.11 PHY Layer	Infra-Red	
	2.4GHz FHSS	
	2.4GHz DSSS	802.11(1/2Mbps)
		802.11b (5.5/11Mbps)
		802.11g (6~54Mbps)
	5GHz OFDM	802.11a (6~54Mbps)
802.11n MIMO		
802.11 MAC Layer	DCF/PCF (RTS/CTS)	
	802.11e: QoS Enhancement	
	802.11i : Enhanced Security	
	802.11n: Enhanced MAX	

IEEE 802.11 DCF

- **DCF: Distributed Coordinated Function**



RTS: RequestToSend
CTS: ClearToSend
NAV: Network Allocation Vectors
SIFS: Short Inter-Frame Space
DIFS: Distributed Inter-Frame Space

無線LANのQoS拡張

- Service Differentiation

Single Priority	DCF	parameter differentiation (contention window, DIFS, packet length, etc..)
		DFS (distributed fair scheduling)
		VMAC (virtual MAC)
	PCF	priority queueing
Multiple Priorities	DCF	EDCA (Enhanced DCF Access)
	PCF	HCCA (HCF Controlled Channel Access)

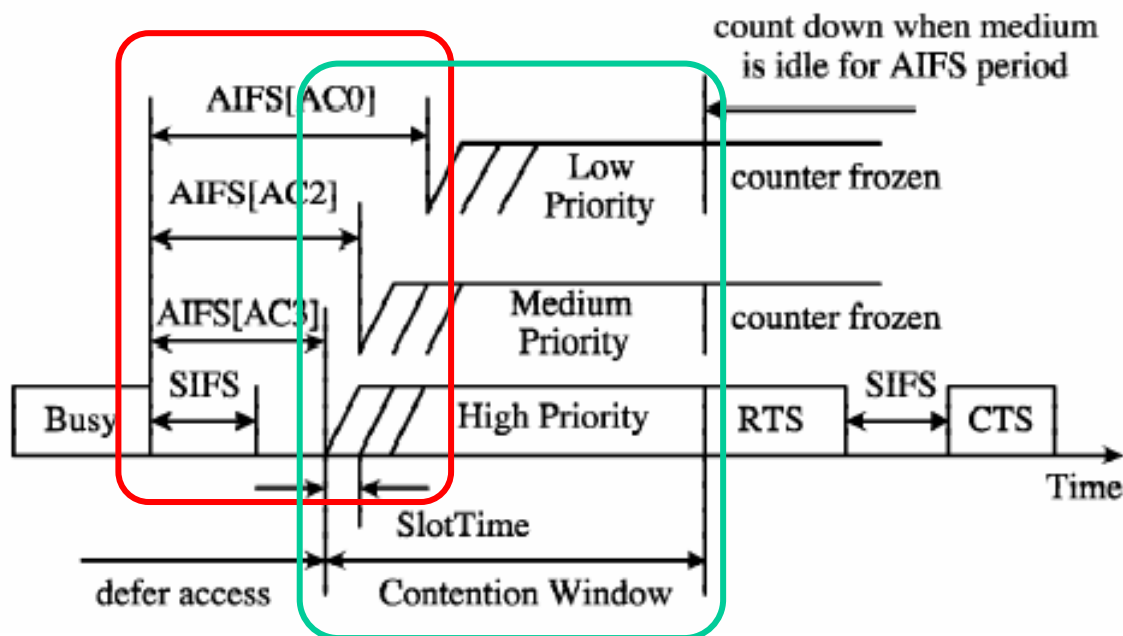
IEEE 802.11e



IEEE 802.11 EDCF (1)

• EDCF: Enhanced Distributed Coordinated Function

サービス毎に異なるバックオフ時間の設定による差別化



パラメータの設定例

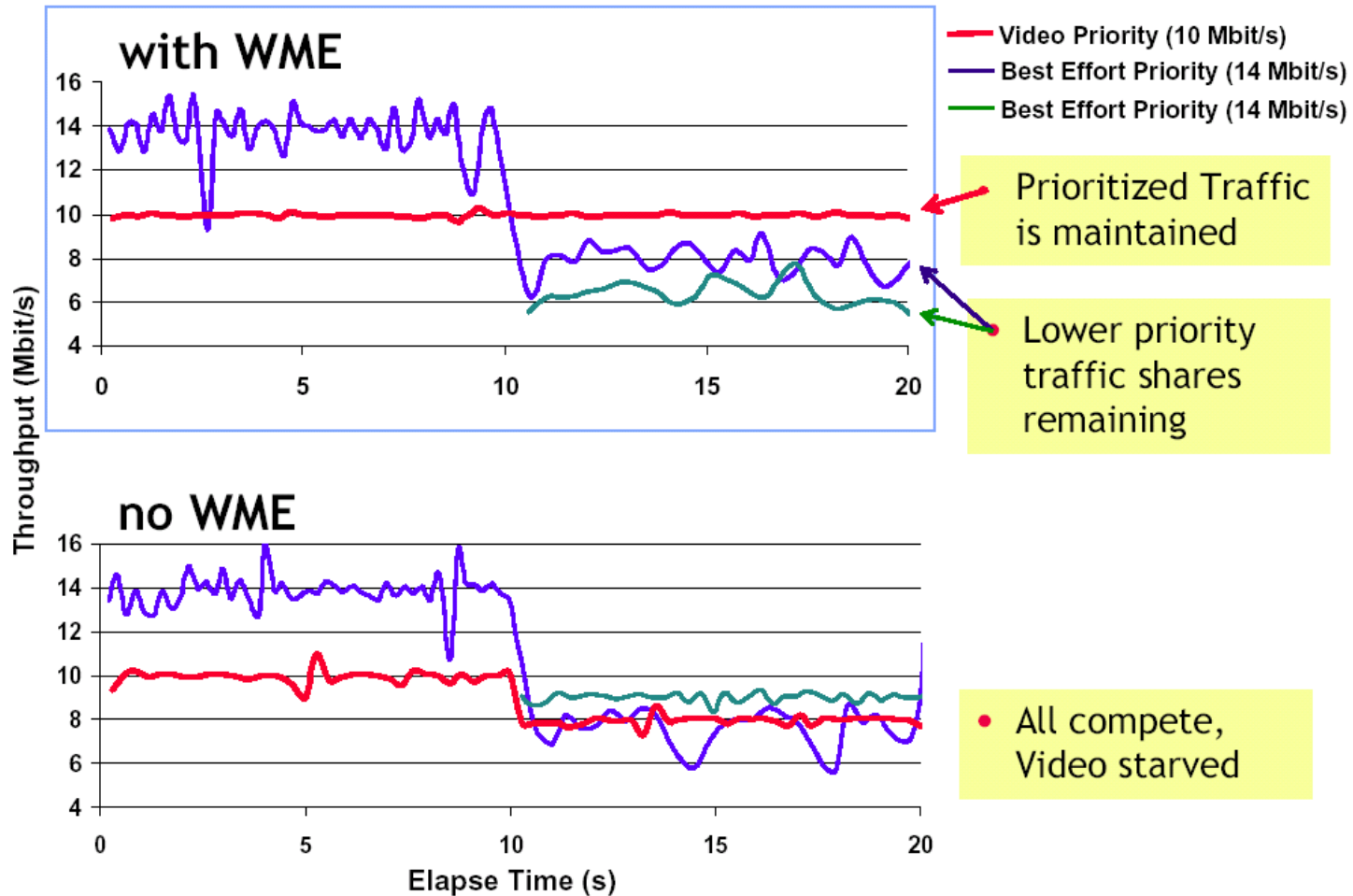
AC: Access Categories
AIFS: Arbitration Inter-Frame Space
CW: Contention Window

AC (Access Categories)	AIFS	CW (contention window)
Voice	2	3
Video	2	7
Best Effort	3	15
Background	7	15

IEEE 802.11 EDCF (2)

• 実験例

WME: WiFi Multimedia Extension

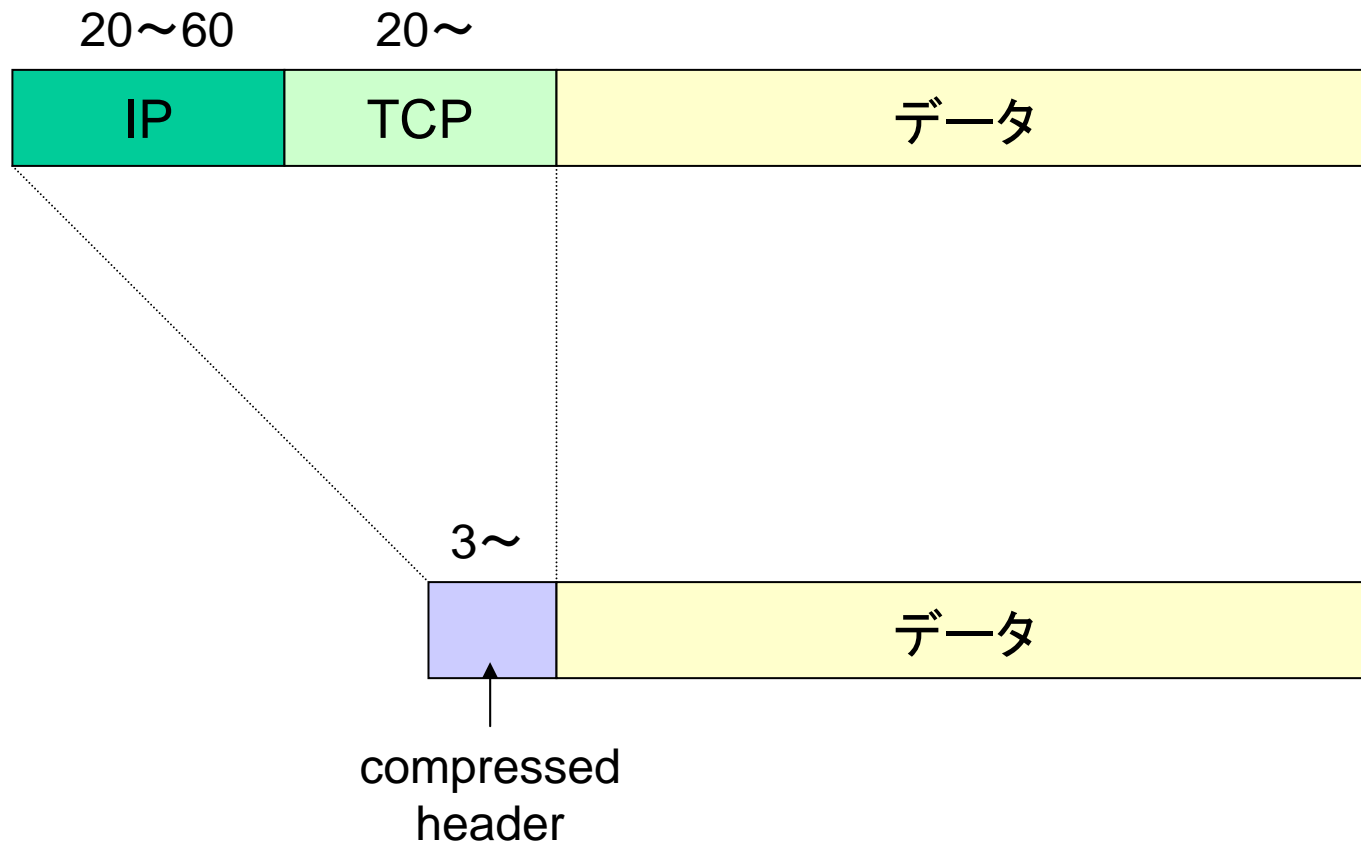


ヘッダ圧縮

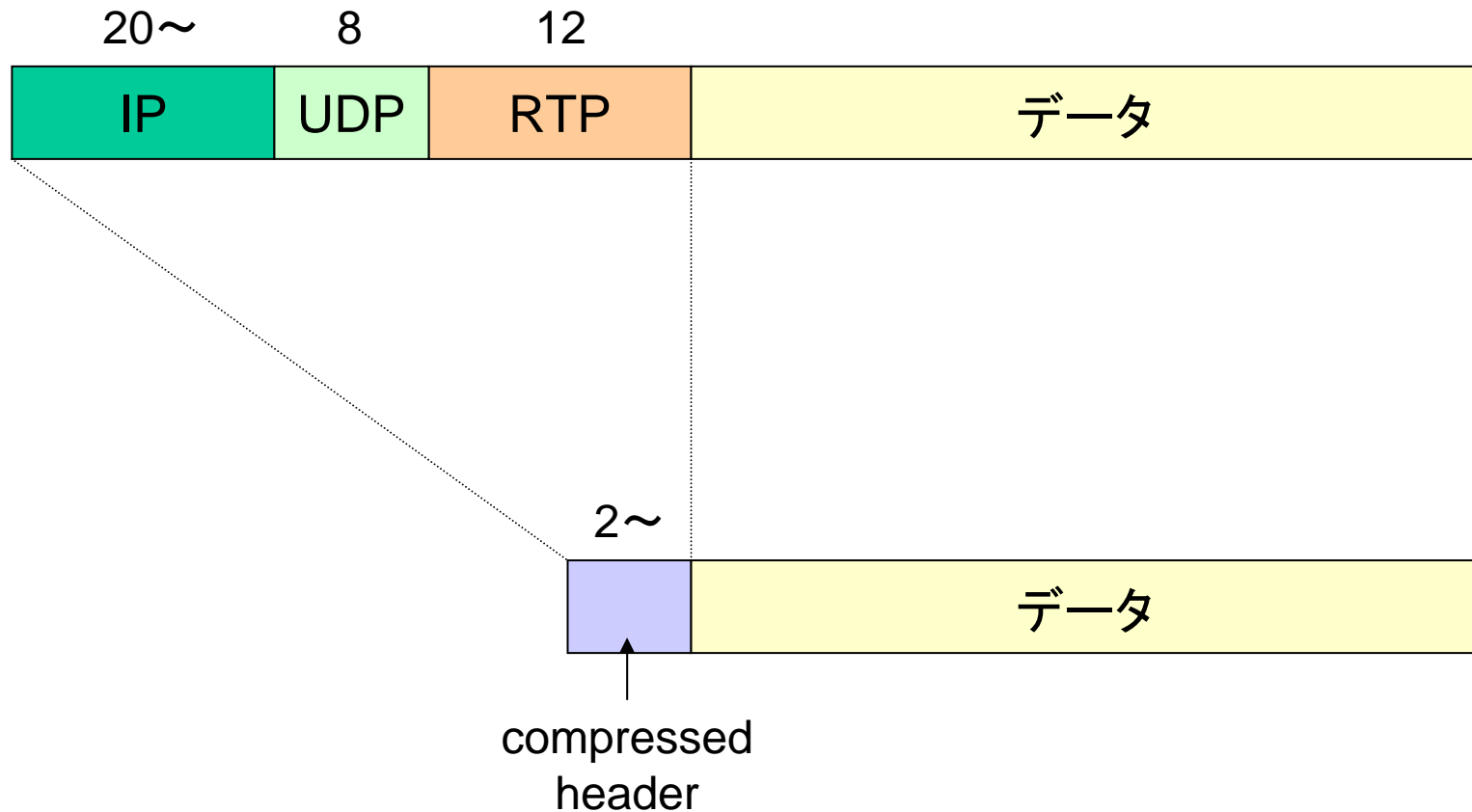
- RFC 2508: Compressing IP/UDP/RTP Headers for Low Speed Serial Links
- RFC 3095: Robust Header Compression

(参考) TCP/IP Header Compression

RFC 1144



IP/UDP/RTP Header Compression (CRTP)

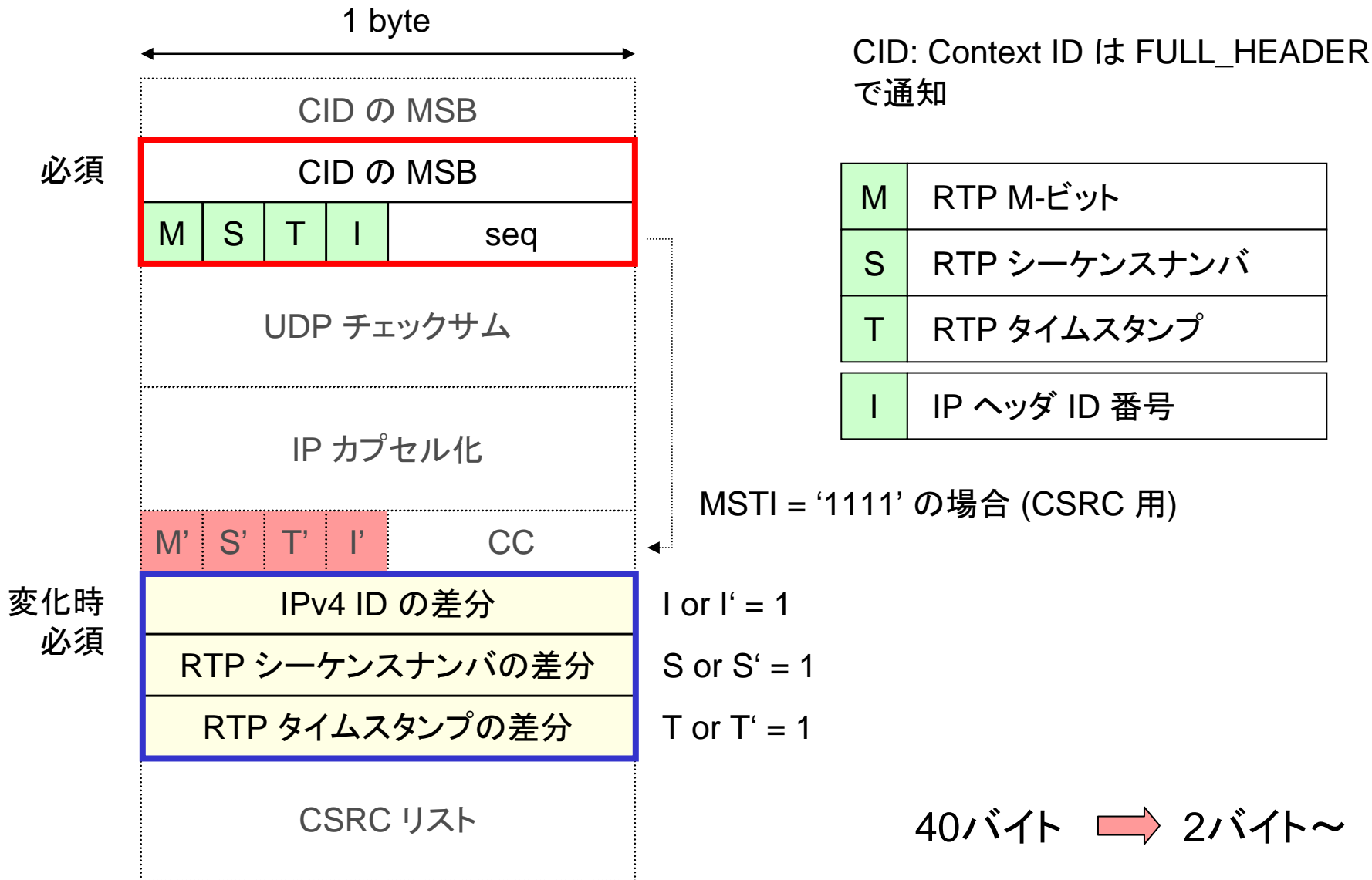


(COMPRESSED RTP)

CRTPの圧縮モード

	IP	UDP	RTP
FULL_HEADER	無圧縮 (状態初期化)		
COMPRESSED_RTP	圧縮 (2バイト~)		
COMPRESSED_UDP	圧縮		無圧縮 (状態初期化)
CONTEXT_STATE	エラー通知用 (フィードバック)		
COMPRESSED_NON_TCP	RFC 2507 (IP Header Compression)		無圧縮

COMPRESSED RTP



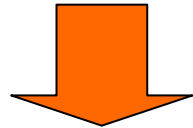
ROHC (Robust Header Compression)

• CRTPの欠点

CRTP は、もともとダイヤルアップ回線のような有線系を想定している。

⇒ 無線リンクのような誤り率や遅延の大きい系は想定外。

⇒ パケット廃棄が頻発すると、正しく復号できない (同期はずれの) 状態が継続。さらに、パケット廃棄のたびに CONTEXT_STATE パケット (初期化要求パケット) が返され、リンクを圧迫。



ROHC (Robust Header Compression)

(1) 無線リンクの通信状況に応じて動的に「状態」を切り替え、もっとも適切なヘッダ圧縮手段を適応的に選択する方式。

(2) はじめはセルラー網 (2.5G/3G 網) 上の VoIP を想定していたが、最近では、無線 LAN 上の VoIP (VoWLAN) への適用例も報告。

ROHC のフィールド分類

• IP/UDP/RTP ヘッダの各フィールドのクラス分類

INFERED: 他のフィールドから推測可能な値

(例: ペイロード長)

STATIC: セッション中に変化しない値

(例: バージョン番号)

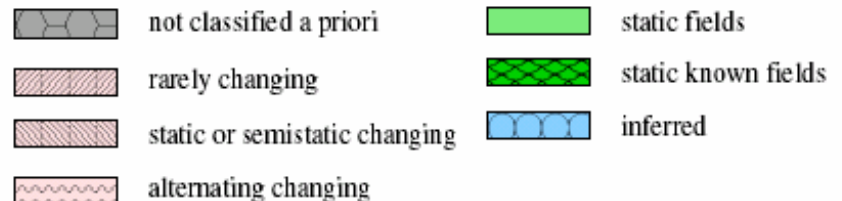
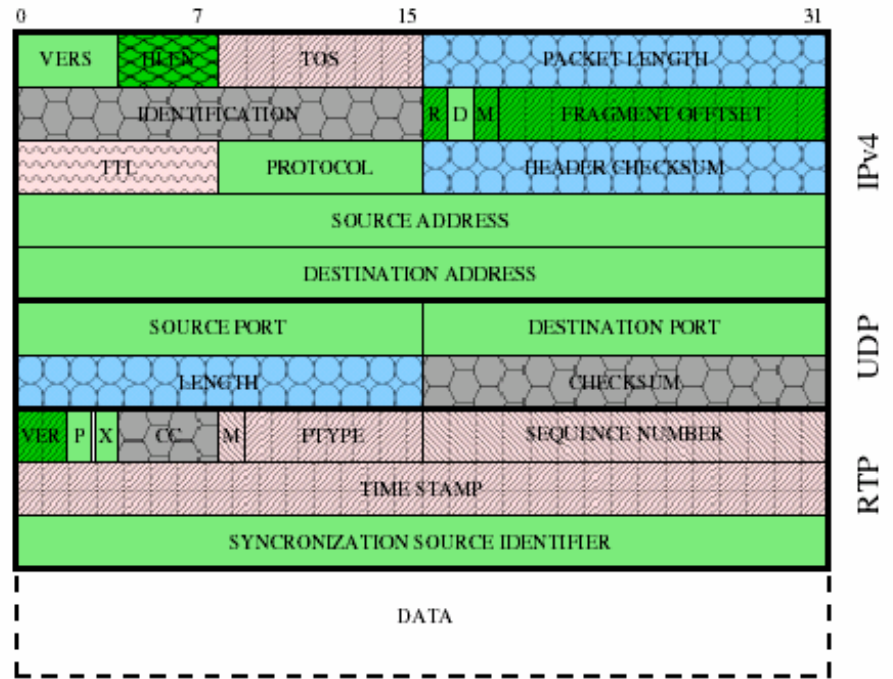
STATIC-DEF: パケット定義 Static フィールド

(IP アドレスとポート番号)

STATIC-KNOWN: 通知不要 Static フィールド

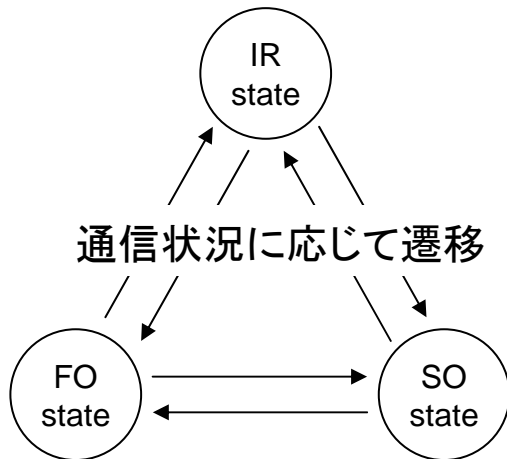
CHANGING: 頻繁に変化する Dynamic フィールド

(例: シーケンスナンバ、タイムスタンプ、Mビット等)



ROHC の状態遷移 (1)

• 送信側の状態遷移

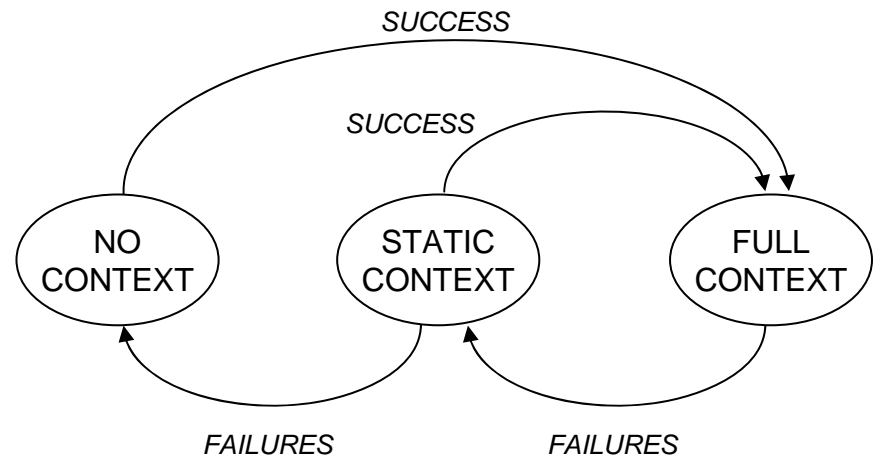


IR: Initialization & Refresh (初期化)
⇒ すべてのフィールド情報を送信

FO: First Order (遷移)
⇒ Dynamic フィールドのみ更新

SO: Second Order (安定)
⇒ 最小フィールドのみ更新

• 受信側の状態遷移



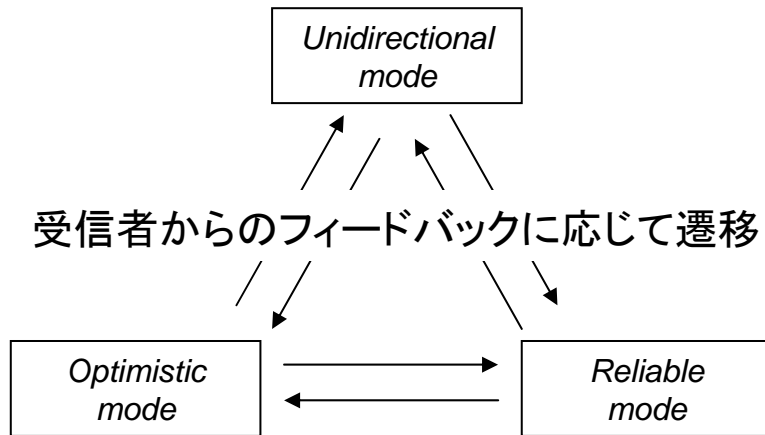
NC: No Context (初期化)
⇒ 有効なヘッダ情報なし

SC: Static Context (遷移)
⇒ Dynamic フィールドの更新が必要

FC: Full Context (安定)
⇒ すべてのフィールド情報を正しく復号

ROHC の状態遷移 (2)

• 転送モードの遷移



Unidirectional mode

⇒ セッション開始時 & 片方向セッション

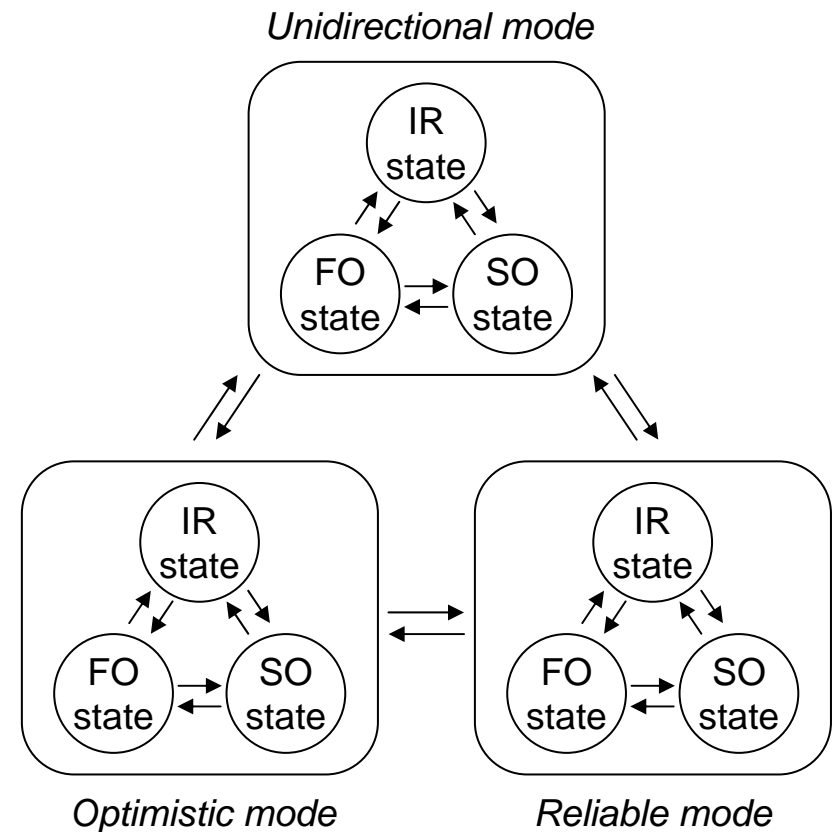
Optimistic mode

⇒ 両方向セッション、消極的なフィードバック

Reliable mode

⇒ 両方向セッション、積極的なフィードバック

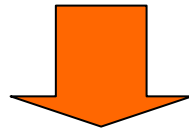
• 送信側の状態とモードの遷移



ROHCのヘッダ圧縮

- 各フィールドの動作分析と予測に基づく符号化

各フィールドの取りうる値の分析に基づき、できる限り、過去に符号化した値 (参照値) からフィールド値を予測 (暗示的にパケットタイプで更新通知)。値を明示的に送信する場合は、下記的方式に従って符号化実行。



Window based LSB encoding:

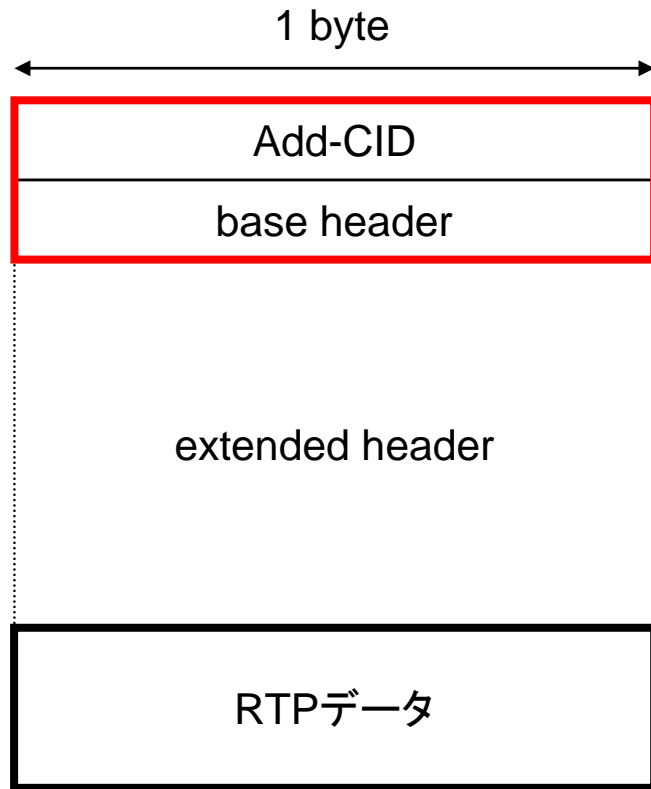
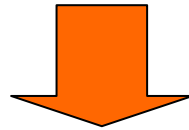
フィールドの取りうる値のレンジに応じて使用するビット数を決め (LSB encoding)、過去に符号化した複数個の値から動的にウィンドウを更新し、ウィンドウ内最小値に対するオフセット値として送信フィールド値を符号化。

Self describing variable length value:

先頭ビットを 0、10、110、111 のいずれかにすることで符号化ビット数を確定し (順に 7、14、21、29 ビット)、送信フィールド値を符号なし整数として符号化。

ROHCのパケットフォーマット

- 「状態」と「モード」に応じて、非常に多数の「パケットタイプ」を定義



必須

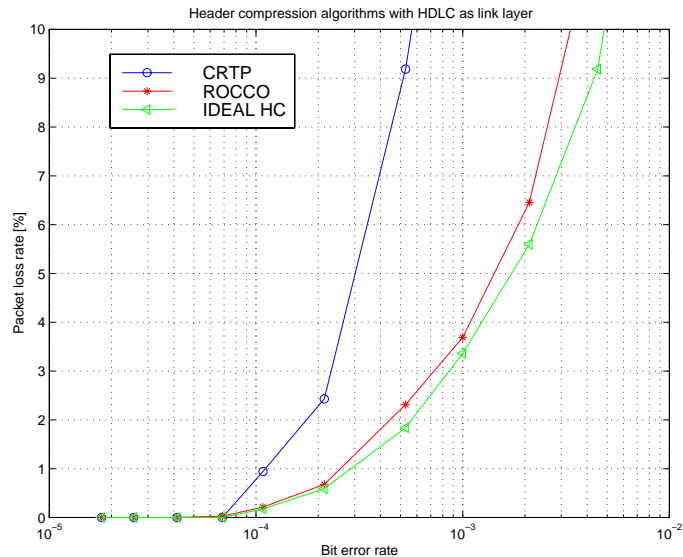
CID: 初期化時に通知される識別ID

base header: パケットタイプの識別と、パケットタイプに応じた dynamic フィールドの更新通知

extended header: パケットタイプに応じて追加されるヘッダ

ROHCの特性評価例

• パケットロス率

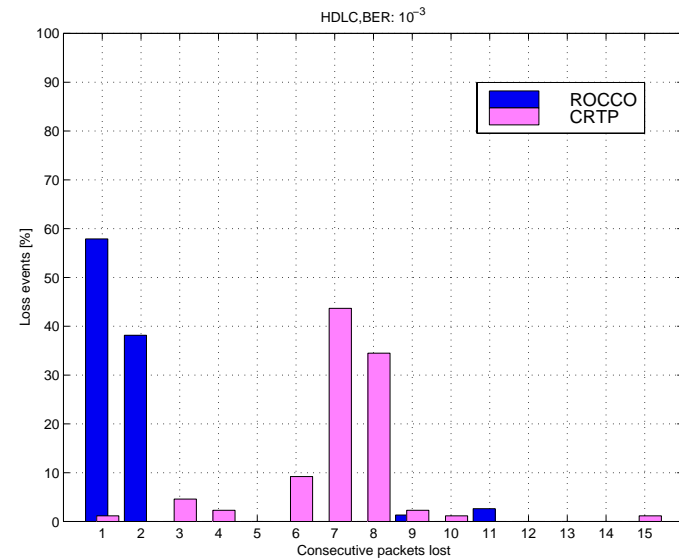


横軸: ビットエラー率 (BER)

縦軸: パケットロス率 (PER)

⇒ ROHC は CRTP よりも理想値に近い振る舞い

• バースト廃棄の分布



横軸: パケットの連続廃棄数

縦軸: 頻度

⇒ ROHC は CRTP よりもバースト廃棄が少ない

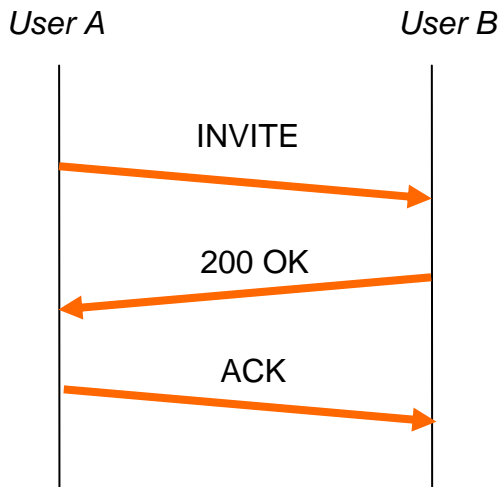
セキュリティ

- SIP Security (シグナリングレベル)
- RFC 3711: Secure RTP (セッションレベル)

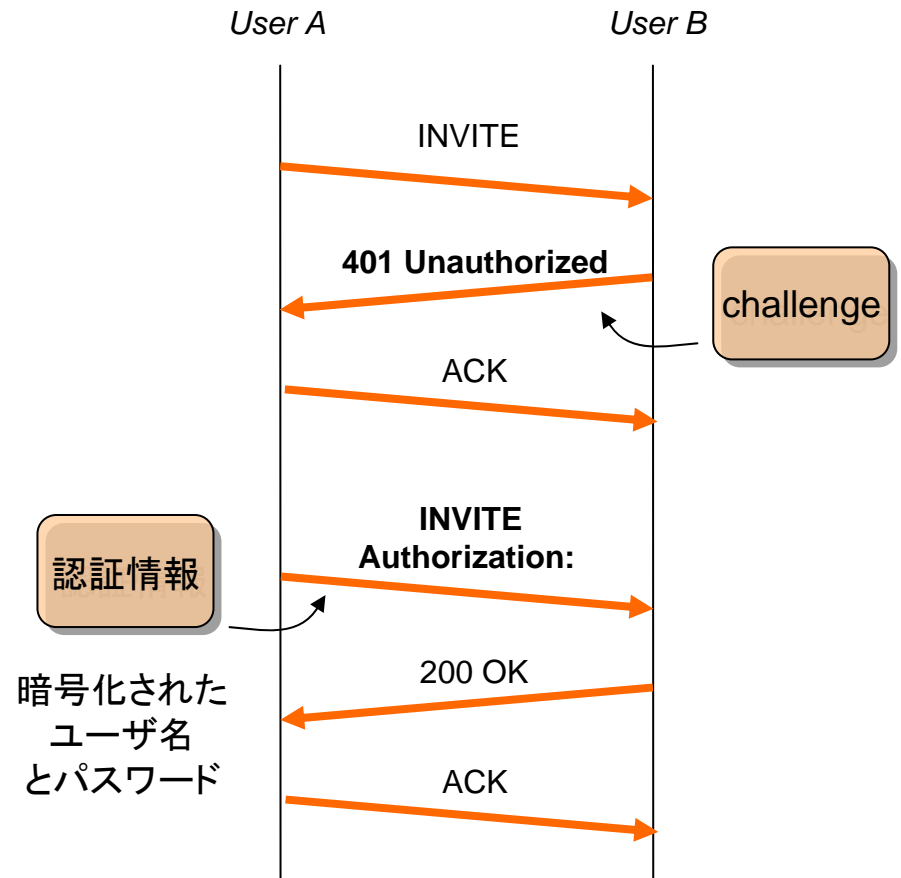
SIP Security (1)

- HTTP認証 (Digest認証) : ユーザ認証

認証なし

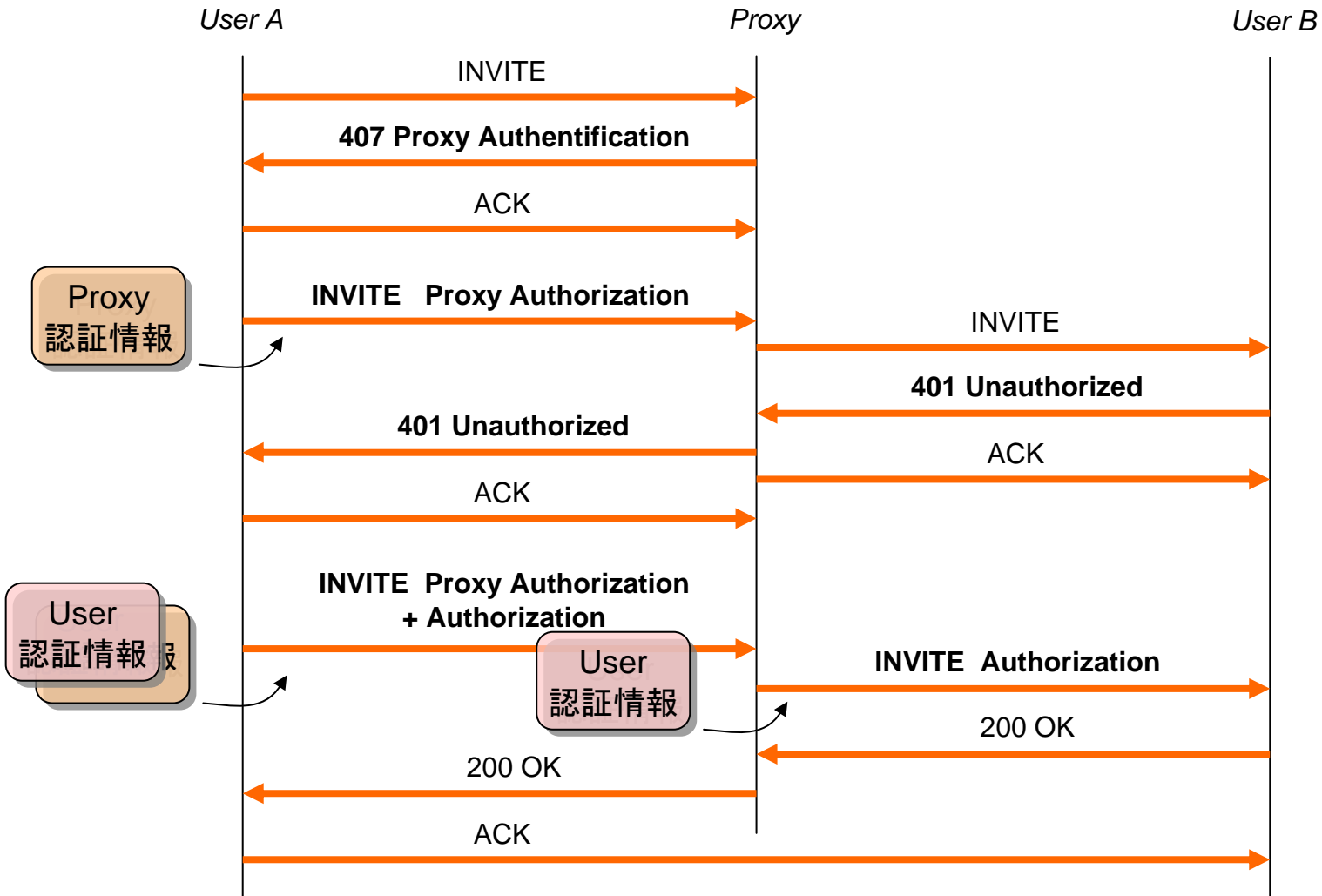


認証あり



SIP Security (2)

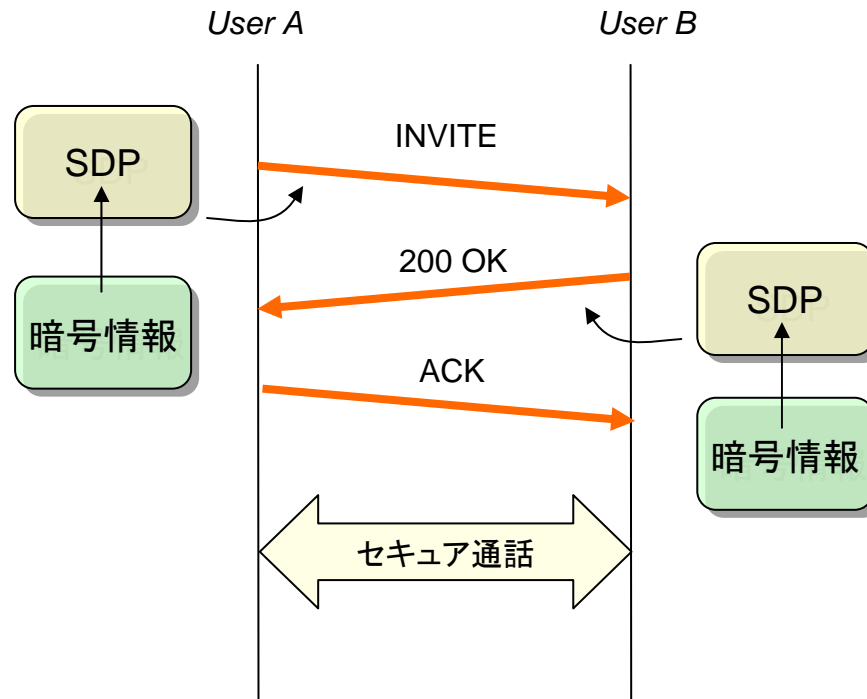
- プロキシ経由: ユーザ認証



Secure RTP

- RTP/RTCPパケットの暗号化

SDPに暗号化情報を含める



授業のまとめ

